

履修の手引

女子美術大学大学院美術研究科 2019

目 次

□建学の精神	3	学芸員養成課程（杉並キャンパス）	44
□大学院美術研究科博士後期課程の教育理念	3	博士前期課程 ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）	45
□大学院美術研究科博士前期課程の教育理念	3	博士前期課程 研究指導及び学位審査要綱	46
□大学院美術研究科博士後期課程の教育目標	3		
□大学院美術研究科博士前期課程の教育目標	3		
□主要日程	4	□博士後期課程	
本学ポータルサイト「Active Academy」	6	博士後期課程の特色および教育課程	53
授 業	6	博士後期課程カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）	56
気象警報等による授業の休講	7	博士後期課程 教育課程の構成	57
単位の基準	8	博士後期課程の教育課程および教員組織	58
履修科目の登録	8	博士後期課程 履修登録	59
試 験	9	博士後期課程 ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）	60
学習の評価と GPA 制度	11	博士後期課程 研究指導及び学位審査要綱	61
単位の授与	12		
成績通知	13	□規 則	
科目等履修生	13	女子美術大学大学院学則	69
単位互換制度	13	女子美術大学学位規程	75
□博士前期課程		□学生生活	
大学院博士前期課程の趣旨と特色	17	図書館の利用	79
博士前期課程 カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）	24	メールアドレスの付与	80
修了条件（博士前期課程）	25	大学院生の実技室使用	81
博士前期課程 教育課程の構成	27	作品及び荷物の搬出入についての取り扱い	82
美術研究科博士前期課程の教育課程及び教員組織	28		
博士前期課程 履修登録	31	□本学ポータルサイト「Active Academy」	
教員免許状の資格取得	33	Web 履修登録の手順	85
教員免許状の申請手続等	33	Web レポート提出の手順について	97
教員採用試験	33	Web 出欠登録の手順について	99
学芸員養成課程（相模原キャンパス）	43		

表紙デザイン：DESIGN ROOM

北井 陽菜

デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻

〈CONCEPT〉

模様のように見える記号の中に「ジョシビ」の文字が隠れています。履修の手引きを通じて、宝探しをするようにひとりひとりが自分にぴったりの道を見つけ出せますようにという願いを込めて制作しました。

建学の精神

「女子美」の名で知られる本学園は、女性に対して高等教育機関における美術教育への門戸が開かれていなかった明治33(1900)年に、「[芸術による女性の自立](#)」、「[女性の社会的地位の向上](#)」、「[専門の技術家・美術教師の養成](#)」を目指して、美術教育をおこなう学校として創立しました。

以後、今日までの110有余年にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出してきました。

現代においても、知性と感性と技能を併せもち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を、下記の教育理念のもとにおこなっています。

大学院美術研究科博士後期課程の教育理念

1. 作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者の養成
2. 社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術をもつ人材の養成
3. 幅広くかつ堅実な方法論をもつ造形理論研究者の養成

大学院美術研究科博士前期課程の教育理念

1. 芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した専門家・作家・研究者の養成
2. 芸術研究の新分野の開拓
3. 新しい視点からの創作研究

大学院美術研究科博士後期課程の教育目標

美術理論に基づく最先端の専門知識・技術を身に付け、新たな価値の創造によってこれからの社会に貢献する指導者、専門家を育成します。

大学院美術研究科博士前期課程の教育目標

美術専攻

芸術における高度な専門的知識・技術・表現力を理解・修得し、さらに多様化するメディアやテーマも視野に入れ、現代の美術において独自の創作と研究の方法論を確立します。新しい表現力で社会活動・創作活動を主体的かつ論理的に行うことのできる人材の育成を目標とします。

デザイン専攻

多岐にわたるデザイン分野において、各研究領域とも、デザイン本来の意味を充分理解し、自己能力・意識の向上を努めると共に、広い視野でデザインを捉えられるように、自ら、研究・探求・創造をおこない、感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力の向上、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識やコミュニケーション能力を兼ね備え国際社会においても活躍出来る人材の育成を目標とします。

芸術文化専攻

美術における高度で広範囲の専門知識・技術を身に付け、社会の各領域において広く活躍出来る専門的技能・知識を修得した専門家を育成します。

主要日程

4月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火

5月	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木
31	金

6月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日

7月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

8月	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土

9月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月

※祝日ですが2019年度は通常授業を行います。

10月	
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木

(即位礼正殿の儀) 22日

(体育の日) 14日

女子美祭週間 22日~27日

展示期間 24日~27日

創立記念日 30日

11月	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土

(文化の日) 3日

(振替休日) 4日

(勤労感謝の日) 23日

12月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月
31	火

冬期休業 (~1月4日) 27日

1月	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木
31	金

(元日) 1日

授業再開 6日

(成人の日) 13日

振替授業日 (月曜授業) 16日

集中補講日 21日, 22日, 23日, 24日

後期授業終了 27日

春期休業 28日

2月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土

(建国記念の日) 11日

(天皇誕生日) 23日

(振替休日) 24日

東京五美術大学連合卒業修了制作展(卒志) 20日~23日

3月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月
31	火

学芸選抜作品展 JOSHIBISON2019(卒志) 2日

大学院修了制作作品展 8日

合同学位・修了証書授与式 12日

(春分の日) 20日

大学・短大卒制展

本学ポータルサイト「Active Academy」

本学は履修登録やシラバス閲覧、休講連絡、大学・研究室・授業担当教員から皆さんへの諸連絡のため、本学ポータルサイト「Active Academy」（以後、「ポータルサイト」と記載）を用意しています。ポータルサイトは学内外を問わず、アクセス・利用することが可能です。
 利用方法については、P.85以降に記載しています。

授 業

1. 授業時間は次のとおりです。

杉並キャンパス	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
相模原キャンパス	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
	9:20～10:50	11:00～12:30	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10

2. 休講—授業担当教員の都合により休講する場合は、休講掲示板に掲載するとともに、履修者にポータルサイトとメールにて告知します。休講掲示・告知がなく30分経過しても授業担当教員が来ない場合は、休講措置をとることがありますので教育支援センターに問い合わせてください。

3. 補講—原則、休講分の授業については、補講期間に補講を実施します。補講の日程については掲示にて告知します。

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。（通常の授業日のスケジュールが表示されています。）

集中補講日の時間割については、必ず別途掲示を確認してください。

4. 欠席の扱い

欠席理由により、公欠扱いとなる場合、公欠扱いとならない場合があります。以下の表を参照し、手続きを行ってください。なお、表に記載された以外の理由については全て「欠席」となります。

公欠…該当する授業の回数と欠席回数を公欠回数減らす措置です。

欠席を出席扱いにするものではありません。

例：半期15回の授業で教育実習で3回欠席し、それ以外は全て出席した場合、12/12回（出席回数/出席すべき授業回数）となります。

欠席理由	公欠扱い	手続き方法
①教育実習	○	掲示や事前指導の指示に従ってください。
②介護等体験	○	
③博物館実習	○	
④古美術研究 （芸術文化専攻のみ）	○ ^{注1}	
⑤裁判員制度に伴う裁判参加	○	「裁判員等選任手続期日のお知らせ（呼出状）」の発行日から14日以内に、コピーを持参の上、教育支援センターに申し出てください。また、事後手続きとして、公判終了日から7日以内に、裁判所が発行する証明書を教育支援センターに提出してください。
⑥インターンシップ	△ ^{注2}	
⑦忌引き	×	次回授業の際、会葬礼状等の日時がわかるものを持参の上、各授業担当教員に報告してください。
⑧学校保健安全法 感染症の予防に関する規則 第19条により出席停止	○	※下記【「学校保健安全法施行規則（感染症の種類）第18条」第一・二・三種疾患について】参照の上、手続きを行ってください。

注1）授業期間に実施した場合のみ。

注2）教務部長が特別に認めたもの（大学が認めた海外インターンシップ等）のみ公欠の対象とします。

- ⑧【「学校保健安全法施行規則（感染症の種類）第18条」第一・二・三種疾患について】
以下の疾患に該当するとの医師の診断を受けた場合は、手続きが必要になります。

対象疾患：

第一種	治癒するまで入院治療が必要。 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ボリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ
第二種	飛沫感染する感染症で、生徒の罹患が多く、学校で流行しやすい。 インフルエンザ、麻疹（はしか）、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	経口感染症とその他学校で流行しやすい感染症。 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O157等）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症〔溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、マイコプラズマ異型肺炎、流行性嘔吐下痢症（ウイルス性胃腸炎）、ウイルス性肝炎、伝染性眼疾患、伝染性皮膚疾患〕

（手続き方法）

1. 医務室に連絡

相模原キャンパス医務室：電話 042-778-6734

杉並キャンパス 医務室：電話 03-5340-4571

※登校支障期間中に試験やレポート提出がある場合、追試験、追レポート対象となる科目もありますので、以下にお問い合わせください。

教育支援センター相模原グループ：電話 042-778-6613

教育支援センター杉並グループ：電話 03-5340-4508

2. 「登校許可書」提出

治癒して登校する場合には、本学所定書式「登校許可書」を担当医に記入いただき、医務室へ提出してください。受診先の文書書式（感染症が治癒し感染の可能性の無い事、及び登校支障期間を明示した文書）でもかまいません。

「登校許可書」は本学ホームページからダウンロードしてください。

※欠席の証明についてはこの登校許可書で行いますので、それ以外の診断書等は不要です。

3. 「公欠願」提出

感染症第一種～第三種に該当の場合は公欠となります。「公欠願」は教育支援センターにて手続きしてください。用紙は本学ホームページからダウンロードできます。

気象警報等による授業の休講

〔相模原キャンパス〕

気象庁より、神奈川県西部相模原に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取扱います（注意報は該当しません）。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

〔杉並キャンパス〕

気象庁より、23区西部に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取扱います（注意報は該当しません）。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

〔休講の確認方法〕

上記やその他の事由により授業を休講する場合は、以下にて告知しますので確認してください。

- ・学内掲示板
- ・本学ホームページ
- ・ポータルサイト
- ・本学代表電話 <相模原キャンパス> 042-778-6111 <杉並キャンパス> 03-5340-4500

単位の基準

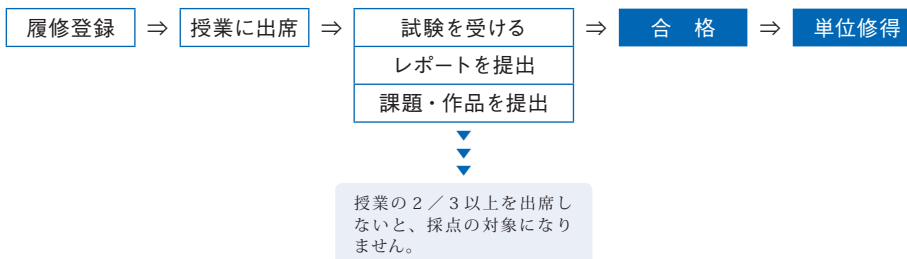
各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算されます。なお、授業は前期15週、後期15週の通年30週とし、時間割の1時限は正味90分ですが単位計算上は2時間として計算しています。

講義	15時間の授業をもって1単位とする
演習	15～30時間の授業をもって1単位とする
実技・実習	30～45時間の授業をもって1単位とする

<単位のしくみ>

単位 (1単位=45時間の学修)	=	授業	+	自学自習 (予習・復習・課題等)
(例) 4単位の講義 (180時間)	=	30コマの授業 (60時間)	+	60コマ分の自学自習 (120時間)
2単位の講義 (90時間)	=	15コマの授業 (30時間)	+	30コマ分の自学自習 (60時間)
2単位の演習 (90時間)	=	15～30コマの授業 (30～60時間)	+	15～30コマ分の自学自習 (30～60時間)
2単位の実技 (90時間)	=	30～45コマの授業 (60～90時間)	+	0～15コマ分の自学自習 (0～30時間)

<単位修得の流れ>



履修科目の登録

年度始めに配布された「時間割表」にもとづき、その年度に履修する授業科目すべて（一部の科目を除く）を、定められた期日までにポータルサイトで履修登録してください。

試 験

1. 試験の方法

試験には筆記試験、レポート・作品の提出などがあります。

2. 試験の時期

筆記試験は原則として各授業の中で実施します。そのほか、各学期末に授業担当教員の必要に応じ補講期間等に行う場合もあります。

レポートの提出による試験は、授業担当教員の指示で各授業内に提出する場合と、各学期末に指定された日時・場所に提出する場合があります。

作品の提出による試験はレポートの提出による試験に準じて実施します。

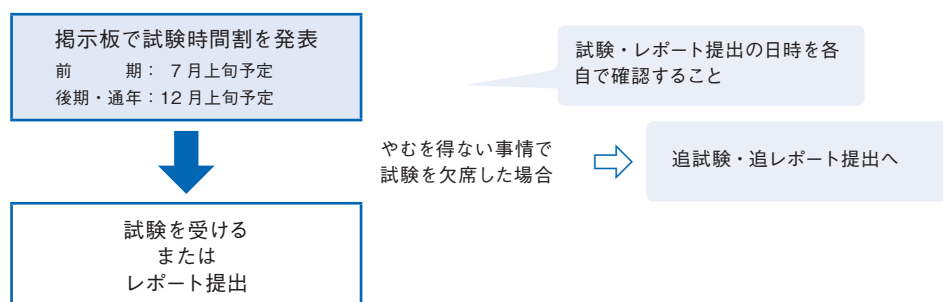
試験（筆記試験、レポート・作品提出）、補講、教室変更、その他試験に関する必要事項は掲示にて告知します。

3. 受験の資格

次に該当する学生は原則として受験資格がありません。

- ・無登録者（授業科目の履修登録をしなかった者）
- ・出席が授業回数の3分の2に満たない者
- ・授業料を無断で滞納している者

4. 試験の流れ



5. 追試験・追レポート

- ・次のa～gの理由またはその他のやむを得ない事情により、筆記試験を欠席した場合やレポート・作品提出日に提出できなかった場合、教育支援センターに追試験・追レポートを願い出ることができます。願い出が承認された場合、追試験を受験すること、レポート・作品を追レポートとして提出することができます。

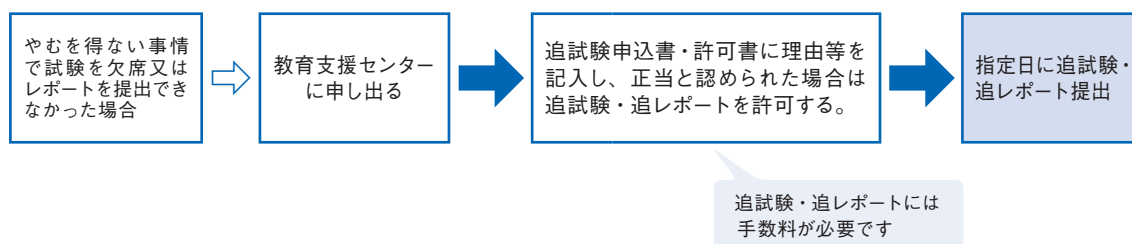
追試験・追レポート受験のための理由

- a 病気（診断書等を要する）
- b 交通事故・遅延（相当証明書を要する）
- c 冠婚葬祭（該当する催しの招待状等を要する）
- d 就職試験（企業の証明を要する）
- e 教員採用試験（教職課程の承認を要する）
- f 公欠扱いとなるもの（教育実習・介護等体験・博物館実習など）P.6 参照
- g 天災

追試験受験・追レポート提出が認められるか否かは、前もって教育支援センターで確認してください。試験日時の勘違い、寝坊等の本人の不注意や、アルバイト、旅行等の試験放棄は対象になりません。

- ・追試験・追レポートの申込み期間は掲示にて告知します。願い出る時は、試験を欠席した理由、レポート・作品を提出できなかった理由を確認できる証明書（上記a～g参照）が必要です。期間終了後は、一切受け付けません。

- ・ 追試験・追レポートの願い出が承認された場合は、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。公欠扱いとなる理由の場合、手数料は不要です。
- ・ 追試験の日時と試験場、追レポートの提出期限・提出場所については掲示にて告知します。



6. 再試験

- ・ 卒業年次の試験で、卒業に必要な科目・資格関連科目が不合格（D）の場合は、再試験を受けることができます。ただし、評価が採点不可（F）の場合は受験資格がありません。
- ・ 再試験の願い出は、8月初旬・2月初旬の一定期間に行うとともに、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。期間終了後は一切受け付けません。
- ・ 再試験の日時と試験場は掲示にて告知します。

7. 試験（筆記試験、レポート・作品提出）に関する注意事項

〔筆記試験〕

- ・ 試験開始前に、「学生証」を机の上に提示してください。紛失したり忘れた場合は教育支援センターで「受験許可証」の発行を受け、受験してください。
- ・ 試験場では、筆記用具、許可された物品以外を机の上に置いてはいけません。ノートや参考書の使用を許可された場合も各自持参のものを使用し、互いの貸借は禁じます。
- ・ 遅刻者の扱いは、授業担当教員（試験監督者）の指示に従ってください。
- ・ 試験中に不正行為が認められた時は、研究科委員会にはかり厳重に処分します。当該科目は採点不可（F）とし、保証人に通知します。また教員免許状取得のための大学からの一括申請は行いません。

〔レポート・作品提出〕

- ・ 教育支援センターにて受け付けるレポート・作品については、「レポート提出票」を貼付し、定められた日時・場所に提出してください。
- ・ レポート提出時に「レポート提出票の控」を受け取って成績が出るまで保管してください。
- ・ レポートや作品を許可なく直接授業担当教員に郵送することは禁止です。
- ・ ポータルサイトで提出するレポート・作品の提出方法については、ポータルサイトのトップ画面に掲載されている「Webレポート提出マニュアル」を参照してください。
- ・ 教育支援センターではレポート・作品は所定の日時以外は受け付けません。提出期限に遅れた場合は5. 追試験・追レポートを参照し、手続きをしてください。
- ・ レポート作成にあたり、他人の文章（Webページ含む）を全部または一部でも出典を明示せずそのまま無断で借用することは剽窃（盗用）にあたります。Webページの文章を単にコピー・アンド・ペーストしてレポート作成しないよう注意してください。剽窃は、カンニング同様の不正行為とみなし、厳重に処分の上、当該科目は採点不可（F）になる場合があります。

学習の評価と GPA 制度

履修登録した科目の成績を5段階で評価し、それぞれに対して4～0のグレード・ポイント（以下、GPと表記）が付きます。GPA(Grade Point Average)とは、これらのポイントの1単位あたりの平均値になります。

評価	評価基準	合否	GP
S	100～90点	合格	4
A	89～80点		3
B	79～70点		2
C	69～60点		1
D	59点以下	不合格	0
F	採点対象外(出席不良等)	採点不可	0

評価の基準・方法は試験の点数だけでなく、課題・レポート内容や受講態度等を含めた評価によります。評価基準は各授業科目ごとに異なるので、ポータルサイトの「シラバス」に掲載されている「評価方法」欄を十分確認してください。

※不合格(D)、採点不可(F)は、「成績通知」には表示されますが、「成績証明書」には表示されません。

GPAの種類は以下の通りになります。

学期GPA

- ・当該学期に成績評価された単位を対象として計算したGPA
- ・通年科目は後期に算出されます

通算GPA

- ・入学時から当該学期までに成績評価された単位を対象として計算したGPA

GPA計算方法（D・F評価も含めて計算します。）

学期GPA	=	$\frac{\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{当該学期履修登録単位数}}$
通算GPA	=	$\frac{[\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}] \text{の総計}}{\text{総履修登録単位数}}$ ※入学時から当該学期まで計算

<p>前期(前期開設科目のみで計算)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位数</th> <th>評価</th> <th>GP</th> <th>単位数×GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●●ゼミ</td> <td>2</td> <td>S</td> <td>4</td> <td>2単位×4=8</td> </tr> <tr> <td>○○論</td> <td>2</td> <td>A</td> <td>3</td> <td>2単位×3=6</td> </tr> <tr> <td>□□概論</td> <td>2</td> <td>D</td> <td>0</td> <td>2単位×0=0</td> </tr> <tr> <td>△△演習</td> <td>1</td> <td>F</td> <td>0</td> <td>1単位×0=0</td> </tr> <tr> <td>①前期履修登録単位数→</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td>②単位数×GPの合計→14</td> </tr> </tbody> </table> <p>前期GPA $\frac{\text{②(前期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 14}{\text{①前期履修登録単位数} = 7} = 2.00$</p>		科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	●●ゼミ	2	S	4	2単位×4=8	○○論	2	A	3	2単位×3=6	□□概論	2	D	0	2単位×0=0	△△演習	1	F	0	1単位×0=0	①前期履修登録単位数→	7			②単位数×GPの合計→14	<p>後期(後期・通年開設科目のみで計算)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位数</th> <th>評価</th> <th>GP</th> <th>単位数×GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●●語I</td> <td>2</td> <td>B</td> <td>2</td> <td>2単位×2=4</td> </tr> <tr> <td>○○学</td> <td>4</td> <td>C</td> <td>1</td> <td>4単位×1=4</td> </tr> <tr> <td>□□論</td> <td>2</td> <td>D</td> <td>0</td> <td>2単位×0=0</td> </tr> <tr> <td>△△実技</td> <td>1</td> <td>F</td> <td>0</td> <td>1単位×0=0</td> </tr> <tr> <td>③後期履修登録単位数→</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td>④単位数×GPの合計→8</td> </tr> </tbody> </table> <p>後期GPA $\frac{\text{④(後期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 8}{\text{③後期履修登録単位数} = 9} = 0.89$</p>		科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	●●語I	2	B	2	2単位×2=4	○○学	4	C	1	4単位×1=4	□□論	2	D	0	2単位×0=0	△△実技	1	F	0	1単位×0=0	③後期履修登録単位数→	9			④単位数×GPの合計→8
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP																																																											
●●ゼミ	2	S	4	2単位×4=8																																																											
○○論	2	A	3	2単位×3=6																																																											
□□概論	2	D	0	2単位×0=0																																																											
△△演習	1	F	0	1単位×0=0																																																											
①前期履修登録単位数→	7			②単位数×GPの合計→14																																																											
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP																																																											
●●語I	2	B	2	2単位×2=4																																																											
○○学	4	C	1	4単位×1=4																																																											
□□論	2	D	0	2単位×0=0																																																											
△△実技	1	F	0	1単位×0=0																																																											
③後期履修登録単位数→	9			④単位数×GPの合計→8																																																											
<p>通算GPA(入学時から当該学期まで計算)</p> <p>通算GPA = $\frac{\text{入学時から当該学期までに履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計} \text{ ② } 14 + \text{④ } 8}{\text{総履修登録単位数} \text{ ① } 7 + \text{③ } 9} = 1.38$</p>																																																															
<p>成績通知書 例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>通算</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.00</td> <td>0.89</td> <td>1.38</td> </tr> </tbody> </table>				前期	後期	通算	2.00	0.89	1.38																																																						
前期	後期	通算																																																													
2.00	0.89	1.38																																																													

GPA対象外科目

- ・認定科目（既修得単位認定）
 - ・芸術学部よりの科目等履修提供科目
 - ・修了要件に含まれない科目（教職に関する科目、博物館に関する科目）
 - ・博士後期課程研究指導
- 一部の科目を除き、単位修得した科目を再履修する事はできません。
不合格・採点不可科目を再履修し単位修得した場合、当該科目の不合格、採点不可の際の単位については、総履修登録単位数から減算します。

単位の授与

授業回数の3分の2以上出席し、試験等の評価がC以上だった科目は合格とし、所定の単位を与えます。一部の科目を除き、単位修得した科目を再度履修することはできません（P.32〔複数履修可能な科目〕参照）。

不合格（D）・採点不可（F）だった場合は、次期以降に再履修することができます。

成績通知

1. 成績通知

今年度履修科目の成績通知（成績・修得単位）は以下の時期に通知します。

	成績通知（前期科目）	成績通知（通年・後期科目）
1年次	9月後期授業開始日に配付	次年度4月の研究領域別オリエンテーション時に配付
2年次	9月後期授業開始日に配付	2月中旬に配付
保証人	保証人に年1回（5月頃を予定）、「成績通知」を送付します。	

2. 成績照会

成績はポータルサイトで確認できます。

3. 採点調査願

「成績通知」に疑問がある場合は、成績評価が「D」または「F」の科目に限り、所定の期間に「採点調査願」を教育支援センター窓口で受け付けます。（期間を過ぎたものは受け付けません）

科目等履修生

本学の授業科目の履修を希望する者は、本学学生の修学に支障のない限りにおいて選考の上、科目等履修生となることが出来ます。申込期間は前期・通年科目は3月中旬、後期科目は7月初旬になります。

単位互換制度

本学大学院では沖縄県立芸術大学大学院および神奈川県内の各大学大学院と単位互換制度を行っています。提供科目、申請の時期等、詳細については掲示を確認してください。

博士前期課程

大学院博士前期課程の趣旨と特色

趣 旨

a. 芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した専門家・作家・研究者の養成

技術革新、社会の国際化、情報化、人々の欲求や価値観の多様化などの社会的動向を反映して、美術・工芸・デザインの諸領域は拡大し多様化するとともに、伝統的なジャンルの境界が消滅しつつあり、したがって、美術に関する知識・技術そして体験には、高度な水準とともに幅の広さも求められるようになりました。美術における研鑽は伝統的に個人の制作体験、時として職人的な作業の繰り返しが中心となってきました。これに対して本研究科は、体系的なカリキュラムを編成して、理論的・技術的な基礎と、幅広い知識、普遍的な認識をもった高度な専門家の養成を主眼とするとともに作家、研究者としての基礎を与えることを目標としています。

b. 芸術研究の新分野の開拓

本研究科は、芸術研究領域の拡大と論理研究の向上に資するとともに、社会的要請に応えるためにいくつかの新しい分野に開設しました。

c. 新しい視点からの創作研究

実技制作は、作家個人の創作活動の積み重ねを主な研究手段としてきました。しかし、創作活動のうちある種の部分、たとえば造形素材とその加工技術、各種用具・機材の利用、表現技法等には、実験的・論理的考察から一般原理の成立が見込まれます。本研究科は、これらの部分についての理解を深めるカリキュラムを編成しました。従来、個人的研鑽と模索に委ねられていた創作研究を、一貫した教育システムにのせて継承発展させてることにより、美術の多様化・領域の拡大に対応して芸術的発想と表現とに広がりや厚みが増えると考えてのことです。

教育研究上の特色

構成の特色

美術研究科を美術専攻・デザイン専攻・芸術文化専攻に分け、それぞれに理論研究の科目を配し、合わせて16研究領域から構成しました。

① 美術専攻

美術専攻は、伝統的な分野を含むファインアート系として実技制作を中心とした「洋画」「日本画」「版画」「工芸」「立体芸術」の5つの領域があります。美術における研鑽は、伝統的に個人の主体性に基づいて創作するものですが、時として職人的な制作活動の繰り返しにより、表現者としての自己確立を目指すものでもあります。

この領域では美術の新しい動向に対応するとともに、境界を越えた表現領域の拡大、多様化に応えられるような効率的かつ整合性のあるカリキュラム編成をしています。芸術学部から一貫した専門性の追求ができると同時に、多角的なアプローチからなるジャンルを越えた視点を通じた実践によって本来の専門へと集約します。

個人の手による表現に客観的評価を加味する素材や手法の演習を通じて実証的、分析的、系統的に研究する独自のシステムによって次のような成果が期待できます。

1. 発想の幅を広げ、ジャンルの境界を越えた創作研究が進められる。
2. 新たな表現の可能性を容易にする。
3. 作品制作における十分な論理的補強を行う機会を得て、論理的思考を養成できる。

② デザイン専攻

21世紀のデザインの包括する領域はますます拡大かつ多様化しつつあります。デザイン界の様々な社会的ニーズと学生の将来的発展の可能性を求め、デザイン専攻は、相模原校地と杉並校地において7つのデザイン領域を設置しています。

相模原校地では、「ヴィジュアルデザイン」、「プロダクトデザイン」、「環境デザイン」の3領域が、それぞれ研究を進めています。

また、杉並校地では、「メディア」、「ヒーリング」、「ファッションテキスタイル」、「アートプロデュース」の4領域が、理論と創作表現の研究を進めています。

以上、多岐にわたるデザイン分野において、各研究領域とも、デザイン本来の意味を充分理解し、自己能力・意識の向上を努めると共に、広い視野でデザインを捉えられるように、自ら、研究・探求・創造をおこない、感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力の向上、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識やコミュニケーション能力を兼ね備え国際社会においても活躍出来る人材の育成をおこないます。

③ 芸術文化専攻

過去から現在、そして未来へと創造を続ける美術は、人間の永遠の表象行為として多義性に満ちています。多様な表現世界が展開する今日、社会的な美術の構造分析に対する求めに応じ、芸術文化専攻は「色彩学」「美術史」「芸術表象」「美術教育」の4研究領域により美術の色・歴史・表現・教育に関する高度で多面的な美術理論研究の構築を目指します。

「色彩学」は、色彩の心理学的側面と光学的側面の2つの立場から色彩の実相に迫ります。「美術史」は西洋美術史、日本・東洋美術史、日本近代美術史の各分野において、作品や作家、制作状況等に関する歴史的解析を行います。また「芸術表象」では、現代アートの表現や活動を中心に、映像や文学、パフォーマンスなども視野に入れつつ、背景となる社会動向や思想哲学を深める研究に取り組みます。さらに「美術教育」では、美術の教育的意義や効果的な美術教育の方法論について研究します。

いずれの研究領域とも、制作と鑑賞の双方に立脚した美術大学にふさわしいカリキュラムを編成し、将来の研究・教育・言論等の各ジャンルで活躍が期待される人材の育成を図ります。

研究領域の特色

美術専攻

【洋画】

今日ほど、真に芸術が求められている時代はありません。諸科学の進歩は人間の生活に飛躍的な便宜性をもたらしてくれましたが、その反面、紛争や環境破壊といった負の文明も引き受けてしまいました。各個人に広がる、「心の闇」の不安にも計り知れないものがあります。洋画研究領域では、このような現代社会の中であって、絵を描く喜び、物を創る楽しさを実感することで社会に「希望」のメッセージを発信したいと考えています。絵画は精神の設計図でもありプログラムでもあります。今日を生きる精神の在り方、態度といった芸術の本質的問題を多くのメディアの総合として提示できるのが絵画です。研究領域では国際的視野に立って、現代アートの表現はどうあるべきか、学部で身につけた技術や知識の上に、さらに多様な手法を追求し、各自のテーマを深めます。自然、文化、物質、その他関心の深いテーマを視座に置き、柔軟な発想で展開していくには材料や技法についても固定的な考えに縛られずにより創意ある表現に向けて大胆な実験を繰り返すことが不可欠です。そのような高度な訓練によって大学で体験した表現の質とスケールをさらに魅力あるものに高めていきます。本領域では、自由闊達なゼミと創作研究に没頭できる制作現場、研究環境を整え、世界に通用する個性とオリジナリティーのある新しい表現力を持った美術作家のみならず、研究者、教育者の育成をも目指します。

【日本画】

日本画の伝統を奥に蔵した新しい日本画を目指すなかで、個々の真の個性を磨き、創造の本質に迫ります。学部で学んだ専門教育を土台に、各自の感性、表現力を更に高度にし、日本画の独自性について考察を進め、将来にわたる創作活動の基本を確かなものとし、日本画表現技法演習では、古典作品を模写研究することにより、様々な専門的技法、知識を習得し、作品への洞察力を養い、創造の普遍性を追求します。また、「日本画材料・技法演習」では、優れた特質を持つ日本画の材料を科学的に見つめ、技法を実験研究し、日本画の新しい発展に繋がります。その他の理論研究とともに、自己を高め、充実した人間となるため、創作研究活動を行い、修士課程の総まとめである修了作品に結実させます。

【版 画】

版画創作研究は、研究の基幹として入学時に専攻の版種を決めます。研究科における研究は基本的に学部における4版種の研究に立脚し、銅版画と石版画を軸として孔版画・木版画さらに版表現に類する表現も含め各自の主体性に基づき継続的に専門性を追求します。

版画は印刷媒体として派生し、その時代の社会に敏感に反応し表現や技術を発展させました。今日では絵画の一領域として、現代の多様化するメディアも視野にいれ版表現としての造形思考を模索する事が重要となっています。そのために、時代の要求として生まれた表現がいかに普遍的表現に変わったか、史学的、科学的な要素も含めた検証を試みながら変遷をたどるとともに、具体的検証法として、特定の作家を題材にイメージの解明、創作コンセプト、素材と技術との相互の影響を分析研究し、今日のメディアをも考慮しながら現代の美術において独自の創作の方法論を確立します。

版画表現における技術偏重が批判され、個人の創造性が期待されて久しいものの、一方、見方を変えるとその技術、素材などの研究、教育も不十分であり個人的研鑽と模索に委ねられていることも事実です。版画表現技術も創作研究の新たな視点として一貫した教育システムのうちに継承発展させる必要があります。実際の技法と材料の研究を目的として、既存の材料、技法のみにこだわらず必要となる材料を各自で考案・開発する基礎力をつける事を目指します。

【工芸(染)】

日本独自の染織文化における染色領域を基に、工芸、アート、デザインに及ぶ創作研究を行います。様々な素材や表現方法を通して染色の総合力を養い、用と美、伝統と現代、先端芸術などのテーマを考え、国際的な視野で新たな造形の構築を学びます。院生は、主体的に独自性のある、より専門性の高い魅力に富む造形表現を追求し、染色文化の一翼を担う意識を持って、社会に発信できる創作研究を目標とします。

【工芸(織)】

織物および繊維造形を中心とした研究領域で、高度な創作活動を目指して各自の研究テーマに沿った新しい表現を研究していきます。絁や天然染料による染色など、伝統的な染織技法による着物から織物組織や特殊加工によるオリジナルファブリック、柔軟な発想で素材の魅力を引き出すテキスタイルアートの制作まで幅広い織の分野に対応します。素材の特色を生かし、発想から独自技法へと展開していく過程で常に考察することが新しい表現を生む重要な要素です。美術や工芸、さらにデザインの分野での繊維による様々な表現を研究しながら、多様化する現代に対応したデザイン・造形表現のため、素材や技術の新たな挑戦を目指します。

【工芸(陶)】

陶についての知識・表現方法を一通り修得した人が、さらに進んで研究を行う場です。陶の特徴は「粘土や釉」を「焼いて作る」という点です。「粘土や釉」の部分は、素材作りということに対応しています。日本および世界の土石原料を用いて、造形素材である粘土や釉が調合され、多種の陶素材が作り出されています。「焼いて作る」という部分は、焼成方法と成形方法に対応します。焼成方法は、窯の様式・焼結温度・還元度合などの要素があり、それらの条件のありかたによって陶の物質感が大きく変化します。成形方法では、研究者が自ら身体によって素材を扱うということが要点であり、技術向上・技法応用・新技法考案などの観点が挙げられます。これらの事柄が互いに密接に関連することで、様々な陶が作り出されるのです。多くの先人たちが優れた成果を出しています。伝統ある分野ですのでその歴史をふまえて、自分はどのような点に問題意識があるのかを明確にし、充実した研究成果を出してください。

【工芸(ガラス)】

ガラスの研究領域では、溶融ガラス・鑄造ガラスなどの手法によって透明・不透明など様々な表現を持つガラス素材をいかに自分の表現したいものに反映させていくかを実際の制作活動を通し研究していきます。数ある工芸素材の中でガラスの特異な面は、ガラスという素材が自然には存在せず、人工的に作り出さねばならない素材であるという点です。ですからガラスで制作するときにはまず、どんなガラス素材を生み出して自作品に用いるかを最初に考慮に入れなければなりません。しかし素材から作り出すということはガラス創作における醍醐味でもあるといえます。

造形を思考すると同時に独自のガラス素材表現も思考することが必要不可欠であり、そのためのためまぬ調査研究や実験制作が求められます。
その上で主体的に自己と他者の関係を確立し、物質および精神の両面において必要とされる作品を作り出すことが創作の原点となるでしょう。

【工芸（刺繍）】

刺繍の研究領域では、まず伝統的な技法について研究を行い、日本刺繍の特質を考察することを出発点とする。そのうえで各自が、伝統の継承やその新たな展開を視野に入れながら創作研究を行う、糸による表現の可能性を模索しながら各自の方向性を決めて、明確な姿勢をもって制作に取り組む。また、現代の刺繍には、多分野の技法が混在し素材も制約されないミックスド・メディアという表現領域が存在するが、刺繍領域には、コンピュータデザイン対応のミシンによるデジタル刺繍、欧米で主流となっているミシンによる表現にも対応できる設備があり、これらの研究も行う。
また現在、日本刺繍に関わる知識と技術は、染織文化財の修復の分野で活かされている。この分野での高度な専門性を身に付けた人材を育成するために、刺繍領域では、染織品の保存修復に関わる研究内容が含まれた「染織品保存修復演習Ⅰ・Ⅱ」が必修となっている。ここでは、可能な限り実物資料を扱うことから研究を深めてゆく内容となっている。

【立体芸術】

表現手段が多様化した現代において、当研究領域では時代に左右されることなく、本質的な表現を求めつつ、自由な創作活動を行うことを中心に置いている。人間としての根底にある美的感性に響く創作を求め研究し、自己の専門性をより深め確立することを望みたい。
また従来の彫刻の枠を超え、多種多様な素材を自由に応用し、自己の感性を信じ、独自のイメージを最大限に具現化する創作研究でありたい。
作品を通じて自己と他人の接点、制作の必要性和社会との関わり等を考え、自己を高める事も必要である。創作内容の質を向上させる為に、他ジャンルの芸術作品を広く鑑賞理解することは重要であると思われる。

デザイン専攻

【メディア】

メディア研究領域では、情報とコミュニケーションをキーワードに、アート・デザインなど造形表現とメディア研究の立場から情報先端技術を取扱い、クリエイティブで人間性豊かな技術活用や表現を追求します。技術と芸術を高度なレベルで融合させ、表現者・研究者として社会に様々な提案を行なうことを目標とします。

具体的な研究領域として

- ・映像（映像、アニメーション、3DCG、デジタルフォト）
- ・インタラクティブ（ゲーム、インタラクティブアート、ロボット）
- ・仮想現実（Virtual Reality）、拡張現実（Augmented Reality）
- ・コミュニケーションデザイン（ポスター、Webデザイン、イラストレーション、スマホアプリ開発）

などを含みます。

この領域では、平面的な視覚表現だけでなく、時間的・空間的要素を加え融合させ、人と人のコミュニケーションをテーマとした総合的な表現と研究を行ないます。さらに実社会との連携を重視し、企業や研究機関とも協同しながら、次世代のコミュニケーションや技術活用について制作研究を行ないます。

【ヒーリング】

われわれが日常生活において、心地よい空間、潤いのある空間で生活を営むことは、精神衛生上不可欠な問題である。精神の安静とストレスの溜まりにくい、リラックスした環境作りについて考えると、そこにはデザインやアートの存在が重要な役割を果たす要素として関わっている。
現代社会におけるヒーリング（癒し）について、アートとデザインの領域から個々のテーマを設定し、研究していくことで、社会との関わりや必要性を探る。ヒーリング表現を、創作と理論を通して考えて

行くことにより、自己の可能性を広げるとともに社会性のある新たな発見を目指す。また、社会の様々な現場で活用されているワークショップ型体験学習によって、個人や集団のコミュニケーションを高め、社会に横たわる様々な問題の改善方法を探ることも視野に入れていく。加えて、医療空間や福祉施設、様々な公共空間、日常生活空間に至るまで、人の暮らしとヒーリングの関係を考察し、ヒーリングを目的とした表現、手段、媒体について、視覚伝達デザイン、住環境デザイン、映像表現、絵画表現、などの作品制作や理論研究によって探求していく。

さらに、身体と向き合うボディーワークを通してアートや環境から得られた「気づき」を、各人の創作や研究に結びつけていく。同時に研究テーマに対して、医学的な調査と検証、色彩心理の調査と検証に基づくデータ分析などから理論的な研究を推し進めていく。これらにより各自の研究を社会にどのように還元し、活用させていくのかといった方法についても探っていく。

【ファッションテキストスタイル】

人は何のために衣服を身につけてきたのか？

そして、衣服は何のためにあるのか？

衣服は、あらゆる意味においての身体保護、装飾性、身分の証、そして自己のアイデンティティを示すなど、様々な役割を果たしています。このことを踏まえながら、日常における自然な行為を再認識し、身体や社会が提起する問いに対する答えとしての衣服や、その多様性、さらには身体や衣服に対する概念について、さまざまな視点から考察を深め、研究し、社会への還元を目を向ける必要があります。本領域では、自己の存在と向き合いながら、人と空間、人と環境について考察し、衣服と身体の関係が、社会の中でいかにあるべきかを思索し、作品制作と論理的な研究へと繋げます。具体的な活動として、日本の伝統繊維の地域プロジェクトは、日本の風土や文化の調査研究を基に、ワークショップや新しい発想から作品制作、発表へとつなげます。また、医療や産官学との連携からテキストスタイルや衣服が人の心を支え、社会との接点を積極的に求めるためのモノとして効果があることが立証されています。美術やデザインの他領域の人や物との交流を積極的に行いながら衣服造形（コンセプチュアルクロース）の表現者、また、衣服デザイン（リアルクロース）の表現者、企画者の育成を目指します。

【アートプロデュース】

「アートプロデュース研究領域」はキュレーター（学芸員）、アートプロデューサー、ファシリテーター養成の形式的な教育だけでなく、アーティストックな感性や視点を大切にして、いかにしてより良い社会を創出することができるか、その社会のアート化、デザイン化に関する研究と実践を展開する「感性の研究室」です。

私たちが創り出すべき作品は、生きることの可笑しみや悲しみをそっと受止めてくれる、人間中心の「社会」そのものであるという視点に立ち、視覚芸術、音楽、演劇といった芸術世界のみならず、広く政治、経済、教育、福祉、医療などを射程に入れ、心に染み入るような社会創造のためのアドボカシーを、それぞれの「作品」として発信、プロデュースしていきます。

【ヴィジュアルデザイン】

人類の発生と同時に人間はコミュニケーションを通じて様々な文化の発展と継承を行ってきました。人間社会の中でテクノロジーの発展に伴い情報は多様化し、コミュニケーションの媒体は、複雑化しています。情報発信は、膨大な情報の渦から選択され、迅速に、正確に必要な情報を伝えなければなりません。時には双方向で伝えあうことが必要とされるようになりました。高度情報化社会の中で、視覚デザインの持つ意義はますます大きくなり、加えてグローバルデザイン、ユニバーサルデザインの視点も求められています。

ヴィジュアルデザインでは、主観的に捉えるイメージーションを、言語でいうならば標準語としての造形言語を基礎にし、自己の独創性がさまざまな視覚伝達機能と共存させられるかを、ひとつの問題提起として実験研究するものです。

制作研究のテーマについては、各自が設定したテーマによって、視覚造形として多角的に研究していきますが、グラフィック表現をはじめ、出版、広告、イラストレーション、写真、映像、タイポグラフィ、それらのアートディレクション、そして視覚造形表現の可能性を追求する純粋なビジュアルアート研究までを含め制作研究の領域とします。

【プロダクトデザイン】

デザインとは、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、および独創的な創作活動の実践を行います。その中でも、プロダクトデザインは、「ヒト(人)」と「モノ(物)」との関係において、その背景にある事象「コト(生活・環境)」を考え、「モノ(道具・形態)」を創るデザインです。そのデザインの基本は、手を使ってモノを想い・考え、コトを発想・考察し、またモノを創り、提案する作業です。

現在、私達の社会・生活の中には多くの「モノ」が満ち溢れています。新しく良い「モノ」を創造・提案するためには、「ヒト」の感性や生活や環境を充分観察・考察し、機能(用)と造形(美)の関係や意味を熟慮し、発想・創造していく姿勢が必要とされています。

価値観の多様化に伴い“デザイン”に高い感性が問われる今、モノに対する細やかな感覚と生活へのこだわりがより一層、デザインに求められています。

本研究領域では、プロダクトデザイン本来の意味を十分に理解し、デザインに不可欠な発想力、技術力、表現力を、各自の研究テーマに即して、調査・研究・考察をおこない、より高度なデザイン能力や、各自の個性・美意識を高める事を目指します。

【環境デザイン】

環境デザイン領域は、人と空間・環境の相互関係をデザインし、21世紀の新しい生活環境を研究する場です。

20世紀の近代デザインは、人々が共に健康で豊かな生活ができる社会の実現を目指しましたが、科学技術や社会構造の急激な変化が引き起こした資源浪費や環境破壊などのマイナス面に十分な対応ができませんでした。その解決が求められているのが現代であるといっても過言ではありません。

本専攻では、インテリアデザインと建築・都市デザインを通して、人にやさしい生活空間と自然と共生し持続可能な都市環境への提案を行います。そのために手と目から思考する自由で高度な研究・創造活動を支援します。

芸術文化専攻

【色彩学】

人間は「視覚的動物」であるといわれるくらい、外界の情報を「見る」ことによって採り入れています。このため美術、娯楽、学問、生活など多くの場面において「見る」という行為は人間にとって非常に重要な役割を果たします。「見る」ことによって形や奥行き、動きなどの情報を得ることができますが、人間の視覚メカニズムは色を見るためにできており、色の知覚から形や奥行きを知るようになっています。つまり色彩は人間の生活・文化活動にとって第一義的に重要な要素であり、芸術、癒し、娯楽、生活などを考える場合に非常に重要な役割を果たします。

そこで色彩について学問しようと考えるとき、色彩のもつ2つの側面に注目する必要があります。まずひとつは、色は人間の内部に生じる心理的現象であるという点です。色は目に入った光から我々の脳が創り出す感覚であり、個人的な心理経験です。このため知覚、記憶、言語、感情、文化などさまざまな人間の心理活動に影響を持ちます。そこで色彩の現象的側面を研究しようとするには、心の働きを知るための心理学的手法を学ぶ必要があります。人間の心の中に生じる各種の色彩現象を客観的に把握するための心理学的原理、調査・実験手法、データ処理、そして考察方法などを中心に学ぶ必要があるのです。もうひとつは色を生じさせるための原理です。色という感覚が我々の心理過程に生じるためには、その原因となる物理的存在が必要となります。作品を作るとはまさにこの要因を作ることであり、どのようにすればどのような色が生じるのかを知ることが重要です。色の原因は主に我々の目に入る光であり、照明デザインならずとも創作するものにとっては見る者の目にどのような光が入りどのように見えるのかを知ることが重要です。

色彩学の研究領域ではこれらの色彩の心理学的側面と物理・光学的側面の両面から研究を行い、学部で学んできた色彩学の知識や技術をさらに発展・展開させていきます。そしてそのうえで各自のテーマをより明確に解明していくことができるよう、より詳細な分野にわたり指導を行います。

【美術史】

本研究領域には、西洋美術史、日本・東洋美術史の研究分野があります。美術史研究は、美術作品が制作された当時の歴史的な脈を明らかにするとともに、人間の営みとしての美術の役割、その今日的な意義を検証するものです。

長年にわたって構築されてきた人文科学・社会科学の方法論を踏まえることはもとより、近年の隣接領域のさまざまな研究方法や成果を柔軟に採り入れながら、美術史を構成する基本的な問題としての時代様式や作品の分析、作家論、受容史などにアプローチします。

本研究領域の研究指導科目である「美術史研究」や「美術文化特殊研究」、共通理論科目の中の美術史系科目のほか、共通実技科目である「芸術創作応用」を選択することにより、素材の研究や表現技法の研究など美術大学ならではの科目を履修することができ、それによって芸術家のより具体的な創造の源に近づき、多角的な美術史研究が可能になるでしょう。

また、様々な素材からなる美術品や文化財に対する光学等の先端技術を取り入れた自然科学的分析研究や、とくに油彩画ならびに彫刻文化財に関する保存修復の諸問題を扱う科目なども用意し、美術史をいわば理論と応用の双方から学ぶことができます。

【芸術表象】

芸術活動は、精神が想起したものを、何らかの方法で具体的に提示する表象行為である。当研究領域は、この表象行為を様々な角度から研究することを目的としている。またその際、社会構造の変化や、背景となる思想哲学、多様な表現を可能にする化学技術の進化にも注目していく。また表象行為そのものも、それだけで完結するのではなく、プロセスや継続性、あるいは相互作用による変容を考慮するようになりつつある。芸術表象研究領域は、先端的な批評理論に基づきながら、表象行為の文化的、社会的、構造的、思想的問題を、実践も交えながら探求していく。

カリキュラムは、理論と実践の両面の充実を重視する。現代美術に関する多様な批評、理論の分析を中心に、芸術および美術に隣接する関連ジャンル（哲学、文芸、演劇、パフォーマンス、デザイン、建築、音楽など）についても幅広く研究するとともに、展覧会のキュレーションやプロジェクトの企画など、アートが直接社会と関わる場面についても積極的に関わりながら研究を進めていく。研究過程においては、常に必要に応じて、種々の実践活動（プロジェクト、ワークショップ、批評、講演アーカイブ構築など）に取り組むことができるように努める。

以上のような研究への取り組みを通じて、多様化する芸術活動において、専門的であると同時に、超領域的な発想を備えた人材を輩出することが当研究領域の特徴である。

【美術教育】

美術教育研究領域では、実技制作と理論研究の両面から、美術の教育的意義や美的な人間形成、あるいはさまざまな美術教育の方法論について研究します。そのためのカリキュラムは、美術教育に関する科目を始めとして、実技制作に関する科目、美術理論に関する科目から構成されます。

まず実技制作は、共通実技科目である「芸術創作応用」を選択することにより、学部の段階で自分が専攻した分野以外のさまざまな分野の実技制作を行います。たとえば、学部で絵画を専攻したとしたら、大学院では絵画以外の彫刻、デザイン、工芸など、専門的な技術を幅広く習得し、それによって広い視野で美術を見つめる能力、表現する能力を身につけます。また美術理論では、共通理論科目からさまざまな美術史、美術理論・造形理論を学習する機会が準備されています。

そして、美術教育研究領域の中核である美術教育に関する科目では、学校教育における美術教育のみならず社会教育・生涯学習における美術教育まで含めて、表現することの根源にある思想や人間形成における美術の本質的意義、あるいは病める心に対する美術的な働きかけなどについて学習します。すなわち、学校教育場面で必要な絵画・彫刻・デザイン・工芸などの指導法の研究はもとより、美術館での教育活動やワークショップを理論的に研究し、さらに美術教育で養われる「情操」や「感性」とは何なのか、病める心に対する芸術療法とは何をどう治療しようとしているのかなどについて、心理学的、脳科学的なアプローチから研究します。いわば「美術の力」を学問的に探求していくことで、これまでとは一味も二味も違った発想や理論的基礎を持った美術教育者の育成を目指します。

博士前期課程 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

大学院 美術研究科 博士前期課程（共通）

大学院美術研究科博士前期課程（共通）は芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した作家・研究者・教育者・高度な専門家を養成することを目的にカリキュラムを編成する。

- ・専攻・研究領域の枠を超えて、各研究領域の基本となる技法と分析方法、美術・デザインに関する理論に取り組むことで、学生各々の研究テーマに自由な発想と分野横断的かつ複合的視野を養う。
- ・研究課題に応じて他研究領域の実技に取り組み、新しい芸術感性と発想力、幅広い視野を培う。

美術専攻

美術の新しい動向に対応するとともに、個々の表現を追求しながら、客観的評価を加味する素材や手法の演習を通じて、実証的、分析的、系統的に創作研究するカリキュラムを編成する。

- ・発想の幅を広げ、伝統的に固定されてきたジャンルの境界を越えた表現の創作研究を可能とする。
- ・作品制作における十分な理論的補強を行う機会を設け、論理的思考を養成する。

デザイン専攻

拡大かつ多様化し続けるデザインに対して、個々の研究テーマを定め、研究テーマの裏付けとなる調査やデータ分析などの論理的な分析を行いながら、表現・手法の専門的技術の追求と作品制作に取り組み、独自の視点の創作表現を探求するカリキュラムを構築する。

- ・豊かな発想と表現力を育む制作環境と指導体制を整え、作品制作と論理的な研究の両面から、学生の将来的発展の可能性を追求する。

芸術文化専攻

美術における伝統と創造の価値を統合する理論的な枠組みを構築し、多様な今日的視点から美術についての理論的な分析による高度で多角的な研究を行うためのカリキュラムを編成する。

- ・色彩研究領域では、色彩学における理論と方法論と会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・美術史研究領域では、隣接領域の研究手法や成果をも柔軟に取り入れながら、美術史における理論と方法論を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・芸術表象研究領域では、理論と実践をふまえて、芸術表象における理論と方法論を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・美術教育研究領域では、隣接諸科学の方法論や研究成果を取り入れながら、美術教育における理論と方法を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るように指導する。

修了条件（博士前期課程）

大学院博士前期課程を修了するためには各研究領域・コースに定められた必修・選択必修科目を含めて32単位以上を修得し、美術専攻は修士作品、デザイン専攻は修士論文または修士作品、芸術文化専攻は修士論文を提出し、審査に合格する必要があります。

美術専攻

研究領域・コース 科目	洋画・日本画・ 版画・立体芸術	工芸（染）・工芸（織）・ 工芸（陶）・工芸（ガラス）	工芸（刺繍）
研究指導科目	16（注1）	16（注1）	16
共通実技科目	4（注2） 8 }	2（注2） 8 }	6（注2） 8 }
研究関連科目			
共通理論科目			
合計	32 単位	32 単位	32 単位

注1. 1 研究領域・コースを選択すること。

注2. 各研究領域・コースが指定する研究関連科目を修得すること。

- ・洋画「洋画表現技法演習」、「洋画材料・技法演習」
- ・日本画「日本画表現技法演習」、「日本画材料・技法演習」
- ・版画「版画表現技法演習」、「版画材料・技法演習」
- ・工芸（染）「染織素材・技法演習」
- ・工芸（織）「染織素材・技法演習」
- ・工芸（刺繍）「染織素材・技法演習」「染織品保存修復演習Ⅰ」、「染織品保存修復演習Ⅱ」
- ・工芸（陶）「陶素材・技法演習」
- ・工芸（ガラス）「ガラス表現素材演習」
- ・立体芸術「立体芸術表現技法演習」、「立体芸術材料・技法演習」

注3. 修士作品を提出すること。

デザイン専攻

研究領域 科目	メディア・ヒーリング・ ファッションテキストスタイル・ アートプロデュース・ヴィジュアルデザイン	プロダクトデザイン・環境デザイン
研究指導科目	16（注1）	16
共通実技科目	4（注2） 8 }	6（注2） 8 }
研究関連科目		
共通理論科目		
合計	32 単位	32 単位

注1. 1 研究領域を選択すること。

注2. 各研究領域が指定する研究関連科目を修得すること。

- ・メディア「インタラクティブ空間演習」、「情報メディア演習」
- ・ヒーリング「アウェアネス演習」、「ヒーリングデザイン演習」
- ・ファッションテキストスタイル「繊維衣服表現演習Ⅰ」「繊維衣服表現演習Ⅱ」
- ・アートプロデュース「アートプロデュース演習Ⅰ」「アートプロデュース演習Ⅱ」
- ・ヴィジュアルデザイン「画像研究演習」、「コミュニケーションデザイン演習」
- ・プロダクトデザイン・環境デザイン「デザイン素材演習」、「形態研究演習」、「空間構造演習」

注3. 修士論文または修士作品を提出すること。

芸術文化専攻

研究領域 科目	色彩学	美術史・芸術表象	美術教育			
研究指導科目	16	16 (注1)	16			
共通実技科目	} 16	} 16	} 16			
研究関連科目				6 (注2)	2 (注2)	8 (注2)
共通理論科目				8	8 (注3)	8
合計	32 単位	32 単位	32 単位			

注1. 1 研究領域を選択すること。

注2. 各研究領域が指定する研究関連科目を修得すること。

- ・色彩学「色彩管理演習」、「色彩実験・調査演習」、「視覚工学演習」または「視覚デザイン演習」
- ・美術史「保存修復論A」、「保存修復論B」、「鑑定分析論」、「文化創作演習」、「芸術表象特講Ⅰ」、「芸術表象特講Ⅱ」の中から2単位以上
- ・芸術表象「保存修復論A」、「保存修復論B」、「鑑定分析論」、「文芸創作演習」、「芸術表象特講Ⅰ」、「芸術表象特講Ⅱ」の中から2単位以上
- ・美術教育「美術教育基礎演習」、「デザイン教育基礎演習」、「美術教育論特講A」、「美術教育論特講B」

注3. 各研究領域が指定する共通理論科目を修得すること。

- ・美術史「日本美術史特講A」、「日本美術史特講B」、「アジア美術史特講」、「西洋美術史特講A」、「西洋美術史特講B」、「近現代日本美術史特講」、「現代芸術特講A」、「現代芸術特講B」の中から4単位以上
- ・芸術表象「伝統と創造」、「言語とアートA」、「言語とアートB」、「図とアート」、「現代文化論」の中から4単位以上

注4. 修士論文を提出すること。

■授業の開講キャンパス

研究指導科目、共通実技科目、研究関連科目は研究領域・コースのキャンパスにて開講します。

美術専攻、デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域、プロダクトデザイン研究領域、環境デザイン研究領域、芸術文化専攻に関する科目は相模原キャンパスにて、その他の研究領域・コースに関する科目は杉並キャンパスにて開講します。

共通理論科目は両キャンパスにて開講します。

■研究指導

美術専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士作品を作成する。

デザイン専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文または修士作品を作成する。

芸術文化専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文を作成する。

■修士論文・修士作品の提出

2年次の初めに各研究テーマにそって、指導教員を決定するので、その研究指導に従い、修士論文・修士作品を作成し、学位申請書とともに所定の期日までに提出すること。(P.46 学位審査要綱参照)

博士前期課程 教育課程の構成

博士前期課程は、次の4つの科目区分によってカリキュラムを構成している。

(1) 研究指導科目

各学生の研究制作、研究テーマに基づいて、指導教員による研究指導を受け、修士作品または修士論文を作成していく科目。

(2) 共通実技科目

研究課題に応じて他の研究領域について実技を通して研究し、新しい芸術感性和幅広い視野でアプローチできる作家・研究者を養成することを目的にした実技科目。

(3) 研究関連科目

各研究領域の基本となる知識、技法、分析方法等に関する授業科目を開設し、多様なアプローチを習得し、専門領域に関する知識を深め、各自の研究テーマへと関連づけていく科目。

(4) 共通理論科目

全専攻にわたって美術・デザインに関する理論的基礎を習得させるとともに、各研究領域を越えて自由な発想と分野横断的かつ複合的視野の養成を図ることを目的とした科目。

美術研究科博士前期課程の教育課程及び教員組織

美術専攻

授業科目名	単位数	授業を行う年次	担当教員	開講キャンパス	備考		
					修了のためには1研究領域を選択の上、必修・選択必修を含めて32単位以上修得すること。さらに修士作品を提出し、審査に合格すること。		
研究指導科目	洋画創作研究Ⅰ	8	1	大森 悟 福士 朋子 山内 隆	相模原	研究領域 洋画は必修	16 単位必修 (1研究領域を選択すること)
	洋画創作研究Ⅱ	8	2				
	日本画創作研究Ⅰ	8	1	宮島 弘道 岸野 香 稲田 亜紀子 村岡 貴美男	相模原	研究領域 日本画は必修	
	日本画創作研究Ⅱ	8	2				
	版画創作研究Ⅰ	8	1	清水 美三子 阿部 大介	相模原	研究領域 版画は必修	
	版画創作研究Ⅱ	8	2				
	工芸創作研究Ⅰ	8	1	工藤 直 渡邊 三奈子 吉田 潤一郎	相模原	研究領域 工芸は必修	
	工芸創作研究Ⅱ	8	2				
	立体芸術創作研究Ⅰ	8	1	平戸 貢児 藤倉 久美子	相模原	研究領域 立体芸術は必修	
立体芸術創作研究Ⅱ	8	2					
共通美術科目	芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P32参照			
	芸術創作応用Ⅱ	2	1・2				
	海外芸術プログラム	2	1・2				
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	1・2	福士 朋子 上葛 明広 池内 晶子	相模原	研究領域 洋画は必修	
	洋画材料・技法演習	2	1・2				
	日本画表現技法演習	2	1・2	岸野 香 渋谷 雅司 藤井 聡子	相模原	研究領域 日本画は必修	
	日本画材料・技法演習	2	1・2				
	絵画材料・技法演習	2	1・2	宮島 弘道 穴倉 佐敏 尾藤 衛己	相模原		
	版画表現技法演習	2	1・2				
	版画材料・技法演習	2	1・2	滝沢 恭司 沼下 桂子	相模原	研究領域 版画は必修	
	染織素材・技法演習	2	1・2				
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	1・2	渡邊 三奈子 荒 姿寿 大崎 綾子	相模原	研究領域 工芸(染・織・刺繍)は必修	
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	1・2				
	陶素材・技法演習	2	1・2	大崎 綾子 深津 裕子 田中 淑江 阿部 みよ子	相模原	研究領域 工芸(刺繍)は必修	
	ガラス表現技法演習	2	1・2				
立体芸術表現技法演習	2	1・2	大崎 綾子 深津 裕子 米倉 乙世 阿部 みよ子	相模原	研究領域 工芸(陶)は必修		
立体芸術材料・技法演習	2	1・2					
共通理論科目	造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並	
	アート&ビジネス論特講	2	1・2	日沼 禎子	相模原	杉並	
	デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	高野 秀士	相模原	杉並	
	デザイン史特講	2	1・2	高野 秀士	相模原	杉並	
	色彩文化論特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原	杉並	
	色彩文化論特講	2	1・2	島倉 瞳	相模原	杉並	
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	2019年度休講		杉並	
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	吉澤 達也	相模原	杉並	
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	日本美術史特講A	2	1・2	吉澤 達也	相模原	杉並	
	日本美術史特講B	2	1・2	橋山 満照	相模原	杉並	
	アジア美術史特講	2	1・2	村松 哲文	相模原	杉並	
	西洋美術史特講A	2	1・2	稲木 吉一	相模原	杉並	
	西洋美術史特講B	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	近現代日本美術史特講	2	1・2	2019年度休講		杉並	
	現代芸術特講A	2	1・2	稲木 吉一 原田 あゆみ	相模原	杉並	
	現代芸術特講B	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	伝統と創造	2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル	相模原	杉並	
	言語とアートA	2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル	相模原	杉並	
	言語とアートB	2	1・2	関 直子	相模原	杉並	
	図とアート	2	1・2	2020年度開講		杉並	
	現代文化論	2	1・2	戸張 泰子	相模原	杉並	
		2	1・2	2020年度開講		杉並	
		2	1・2	北澤 憲昭	相模原	杉並	
		2	1・2	中野 仁詞	相模原	杉並	
		2	1・2	北澤 憲昭	相模原	杉並	
	2	1・2	2020年度開講		杉並		
	2	1・2	成相 肇	相模原	杉並		
	2	1・2	2019年度休講		杉並		
	2	1・2	仲俣 暁生	相模原	杉並		
	2	1・2	2019年度休講		杉並		
	2	1・2	藤田 直哉	相模原	杉並		
	2	1・2	2019年度休講		杉並		
	2	1・2	佐藤 紀子	相模原	杉並		
	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並		

※デザイン専攻及び芸術文化専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

デザイン専攻

授業科目名	単位数	授業を行う年次	担当教員	開講キャンパス	備考		
					修了のためには1研究領域を選択の上、必修・選択必修を含めて32単位以上修得すること。さらに修士論文または修士作品を提出し、審査に合格すること。		
メディア研究Ⅰ	8	1	浅野 正博 川口 吾妻 内山 博子 小笠原 たけし			研究領域 メディアは必修	
メディア研究Ⅱ	8	2	浅野 正博 川口 吾妻 内山 博子 小笠原 たけし	杉並			
ヒーリング研究Ⅰ	8	1	山野 雅之 野呂田 理恵子				研究領域 ヒーリングは必修
ヒーリング研究Ⅱ	8	2	山野 雅之 野呂田 理恵子	杉並			
ファッションテキスタイル研究Ⅰ	8	1	眞田 岳彦 山村 美紀				研究領域 ファッションテキスタイルは必修
ファッションテキスタイル研究Ⅱ	8	2	眞田 岳彦 山村 美紀	杉並			
アートプロデュース研究Ⅰ	4	1	日沼 禎子 南島 隆				研究領域 アートプロデュースは必修
アートプロデュース研究Ⅱ	4	2	日沼 禎子 南島 隆	杉並			
キュレーション研究Ⅰ	4	1・2	日沼 禎子	杉並			
キュレーション研究Ⅱ	4	1・2	日沼 禎子	杉並			
ヴィジュアルデザイン研究Ⅰ	8	1	林 規章 立花 文穂 浅野 晃成 能見 英子 澁谷 克彦 長崎 訓子	相模原		研究領域 ヴィジュアルデザインは必修	
ヴィジュアルデザイン研究Ⅱ	8	2	林 規章 立花 文穂 浅野 晃成 能見 英子 澁谷 克彦 長崎 訓子	相模原			
プロダクトデザイン研究Ⅰ	8	1	田村 俊明 廣田 尚子 松本 博子	相模原		研究領域 プロダクトデザインは必修	
プロダクトデザイン研究Ⅱ	8	2	田村 俊明 廣田 尚子 松本 博子	相模原			
環境デザイン研究Ⅰ	8	1	横山 勝樹 後藤 浩介 伊勢 克也	相模原		研究領域 環境デザインは必修	
環境デザイン研究Ⅱ	8	2	横山 勝樹	相模原			
共通 実技 科目							
芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P32参照				
芸術創作応用Ⅱ	2	1・2	P32参照				
海外芸術プログラム	2	1・2	P32参照				
アウェアネス演習	2	1・2	ヤマザキ ミノリ 喜多尾 浩代 栗野 ユミト	杉並		研究領域 ヒーリングは必修	
ヒーリングデザイン演習	2	1・2	山野 雅之 野呂田 理恵子 宮坂 真紀子	杉並			
インタラクティブ空間演習	2	1・2	石井 拓洋	杉並		研究領域 メディアは必修	
情報メディア演習	2	1・2	出淵 亮一朗	杉並			
メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	1・2	内山 博子 森内 大輔	杉並			
メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	1・2	川口 吾妻 小笠原 たけし 金 多賢	杉並			
繊維衣服表現演習Ⅰ	2	1・2				研究領域 ファッションテキスタイルは必修	
繊維衣服表現演習Ⅱ	2	1・2	眞田 岳彦 山村 美紀	杉並			
アートプロデュース演習Ⅰ	2	1				研究領域 アートプロデュースは必修	
アートプロデュース演習Ⅱ	2	2	日沼 禎子 南島 隆	杉並			
画像研究演習	2	1・2	能見 英子	相模原		研究領域 ヴィジュアルデザインは必修	
コミュニケーションデザイン演習	2	1・2	長崎 訓子	相模原			
デザイン素材演習	2	1・2	田村 俊明 山下 玲奈	相模原		研究領域 プロダクトデザイン、 環境デザインは必修	
形態研究演習	2	1・2	後藤 浩介 山本 吉男	相模原			
空間構造演習	2	1・2	伊勢 克也 飯村 和道	相模原			
造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並	16単位以上 選択必修	
アート&ビジネス論特講	2	1・2	日沼 禎子	相模原			
デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	2020年度開講		杉並		
デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	高野 秀士	相模原	杉並		
デザイン史特講	2	1・2	高野 秀士	相模原	杉並		
色彩文化論特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原	杉並		
色彩文化論特講	2	1・2	島倉 瞳	相模原			
色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	2019年度休講		杉並		
色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	2020年度開講	相模原			
色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	吉澤 達也		杉並		
色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	2020年度開講	相模原			
色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	吉澤 達也		杉並		
日本美術史特講A	2	1・2	檀山 満照	相模原			
日本美術史特講B	2	1・2	村松 哲文		杉並		
日本美術史特講B	2	1・2	稲木 吉一	相模原			
アジア美術史特講	2	1・2	2020年度開講		杉並		
アジア美術史特講	2	1・2	2019年度休講	相模原			
西洋美術史特講A	2	1・2	稲木 吉一 原田 あゆみ		杉並		
西洋美術史特講A	2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル	相模原			
西洋美術史特講B	2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル		杉並		
西洋美術史特講B	2	1・2	関 直子	相模原			
近現代日本美術史特講	2	1・2	2020年度開講		杉並		
近現代日本美術史特講	2	1・2	戸張 泰子	相模原			
現代芸術特講A	2	1・2	2020年度開講		杉並		
現代芸術特講A	2	1・2	北澤 憲昭	相模原			
現代芸術特講B	2	1・2	中野 仁詞		杉並		
現代芸術特講B	2	1・2	北澤 憲昭	相模原			
伝統と創造	2	1・2	2020年度開講		杉並		
伝統と創造	2	1・2	成相 肇	相模原			
言語とアートA	2	1・2	2019年度休講		杉並		
言語とアートA	2	1・2	仲俣 暁生	相模原			
言語とアートB	2	1・2	2019年度休講		杉並		
言語とアートB	2	1・2	藤田 直哉	相模原			
図とアート	2	1・2	2019年度休講		杉並		
図とアート	2	1・2	佐藤 紀子	相模原	杉並		
現代文化論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並		

※美術専攻及び芸術文化専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

芸術文化専攻

授 業 科 目 名		単 位 数	授 業 を 行 う 年 次	担 当 教 員	開 講 キャンパス	備 考		
研究指導科目	色彩学研究Ⅰ	4	1	2019年度休講	相模原	研究領域 色彩学は必修	(1 研究領域を選択すること) 16 単位必修	
	色彩学研究Ⅱ	4	2					
	色彩学特殊研究A	4	1・2					
	色彩学特殊研究B	4	1・2	2019年度休講				
	美術史研究Ⅰ	4	1	稲木 吉一 関 直子	相模原			研究領域 美術史は必修
	美術史研究Ⅱ	4	2	稲木 吉一 関 直子	相模原			
	芸術表象研究Ⅰ	4	1	杉田 敦	相模原	研究領域 芸術表象は必修		
	芸術表象研究Ⅱ	4	2					
	美術文化特殊研究A	4	1・2	宮本 由紀	相模原	研究領域 美術史又は芸術表象は必修		
	美術文化特殊研究B	4	1・2	2019年度休講	相模原			
	美術教育研究Ⅰ	4	1	前田 基成	相模原	研究領域 美術教育は必修		
	美術教育研究Ⅱ	4	2					
美術教育特殊研究A	4	1・2	前田 基成	相模原				
美術教育特殊研究B	4	1・2	宮永 美知代	相模原				
共通 美術 科目	芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P32参照				
	芸術創作応用Ⅱ	2	1・2					
	海外芸術プログラム	2	1・2					
研究 関 連 科 目	色彩管理演習	2	1・2	2019年度休講	相模原	研究領域 色彩学は必修		
	色彩実験・調査演習	2	1・2	本吉 勇	相模原			
	視覚工学演習	2	1・2	2019年度休講	相模原	研究領域 色彩学は2単位以上選択必修		
	視覚デザイン演習	2	1・2	大関 徹	相模原			
	保存修復論A	2	1・2	田中 智恵子	相模原	研究領域 美術史又は芸術表象は2単位以上選択必修		
	保存修復論B	2	1・2	信太 司	相模原			
	鑑定分析論	2	1・2	星 恵理子 田中 智恵子	相模原			
	文芸創作演習	2	1・2	羽島 嘉郎 城戸 朱理	相模原			
	芸術表象特講Ⅰ	2	1・2	杉田 敦 栗田 大輔	相模原			
	芸術表象特講Ⅱ	2	1・2					
	社会芸術プログラム	2	1・2	杉田 敦	相模原			
	美術教育基礎演習	2	1・2	鈴木 淳子	相模原			
	デザイン教育基礎演習	2	1・2	原田 敬一	相模原	研究領域 美術教育は必修		
	美術教育論特講A	2	1・2	前田 基成	相模原			
美術教育論特講B	2	1・2	相模原					
映像メディア教育特論	2	1・2	後藤 富美子	相模原				
共通 理 論 科 目	造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並		
	アート&ビジネス論特講	2	1・2	日沼 禎子	相模原			
	デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	高野 秀士	相模原	杉並		
	デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	高野 秀士	相模原			
	デザイン史特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原	杉並		
	色彩文化論特講	2	1・2	島倉 瞳	相模原			
	色彩文化論特講	2	1・2	2019年度休講		杉並		
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	2020年度開講	相模原			
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	吉澤 達也		杉並		
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	2020年度開講	相模原			
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	吉澤 達也		杉並		
	日本美術史特講A	2	1・2	檜山 満照	相模原			
	日本美術史特講B	2	1・2	村松 哲文		杉並		
		2	1・2	稲木 吉一	相模原			
	アジア美術史特講	2	1・2	2020年度開講		杉並		
		2	1・2	2019年度休講	相模原			
	西洋美術史特講A	2	1・2	稲木 吉一 原田 あゆみ		杉並		
		2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル	相模原			
	西洋美術史特講B	2	1・2	カマチョ・クリス・ハビエル		杉並		
		2	1・2	関 直子	相模原			
	近現代日本美術史特講	2	1・2	2020年度開講		杉並		
		2	1・2	戸張 泰子	相模原			
	現代芸術特講A	2	1・2	2020年度開講		杉並		
		2	1・2	北澤 憲昭	相模原			
	現代芸術特講B	2	1・2	中野 仁詞		杉並		
		2	1・2	北澤 憲昭	相模原			
	伝統と創造	2	1・2	2020年度開講		杉並		
2		1・2	成相 肇	相模原				
言語とアートA	2	1・2	2019年度休講		杉並			
	2	1・2	仲俣 暁生	相模原				
言語とアートB	2	1・2	2019年度休講		杉並			
	2	1・2	藤田 直哉	相模原				
図とアート	2	1・2	2019年度休講		杉並			
	2	1・2	佐藤 紀子	相模原				
現代文化論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並			

※ 美術専攻及びデザイン専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

博士前期課程 履修登録

授業科目を履修するためには、その年度に履修する科目の全てについて、履修登録をしなければなりません。履修登録が完了しないと、授業を受講できないとともに単位が修得できません。履修登録はポータルサイトでの手続きとなります。必ずWeb履修登録締切までに完了してください。

※ Web履修登録については、Web履修説明会に必ず参加し、使用方法を確認してください。ポータルサイトのログインページは「<https://aa.joshibi.net/>」です。

I 履修関係書類の交付

- ① 1・2年次とも4月の履修ガイダンス（相模原）・研究領域別オリエンテーション（杉並）の際に「履修の手引」「時間割表」を配布します。2年次生は「前年度の成績通知書」も併せて配布します。
- ② 「時間割表」の訂正、教室の変更等は掲示板にて告知します。掲示には十分注意してください。

II 履修計画の立案、決定

「履修の手引」「時間割表」およびポータルサイト「シラバス」、2年次生は「前年度の成績通知書」の単位修得状況を確認しながら今年度の履修計画を立ててください。

授業科目の授業内容については、ポータルサイト「シラバス」を参照してください。

III Web履修登録

Web 履修登録締切 4月13日（土）13:00

- ① ポータルサイトの「履修登録」にて今年度に履修する全授業科目（後期科目も含む）を登録してください。ただし、「海外芸術プログラム」「社会芸術プログラム」については別途履修登録を行うので、ここでは登録する必要はありません。
- ② 必修科目等の登録漏れがないかを各自で十分に確認の上、登録してください。特に、2年次生はその際に科目区分ごとの修了所要単位も必ず確認してください。
※ Web履修登録締切を過ぎると、作業途中であっても、履修登録が出来なくなりますのでご注意ください。
- ③ 1年次で教育職員免許状（専修）取得希望者は、「免許状取得願」（ガイダンスの際配付）を4月11日（木）までに教育支援センター窓口に提出すること。

IV 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① Web履修登録締切後、4月18日（木）に履修届を所属の研究室より受け取り、必修科目や修了必要科目等の確認とともに、今年度履修する全授業科目を各自で再確認してください。訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ② 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

〔履修科目の中止〕

科目の履修にあたっては、十分検討のうえ決定するとともに途中で放棄するようなことがないように努めてください。科目の履修を中止する場合は「履修中止届」を教育支援センターに提出してください。「履修中止届」の提出がなく一方的に科目の履修を放棄した場合には、成績通知表に「F」（採点不可）と表示されます。

D・F評価も含めてGPAを計算するため、履修中止科目がある場合は、必ず所定の期間内に履修中止手続きをしてください。

提出締切日：前期5月31日（金） 後期10月31日（木）

〔後期追加登録〕

追加・変更の登録を受け付けます。希望する学生は定められた期間内に手続きをしてください。

〔共通実技科目〕

■芸術創作応用

自分の研究領域・コースとは別の実技系領域を経験して、創作活動や研究活動の幅と深みを増せるように設けられた科目です。

2領域、計4単位まで履修可能です。

同じ領域を2回履修することはできません。

1領域目がⅠ、2領域目がⅡと表記されます。

授業内容	単位	授業を行う年次	開講キャンパス	担当教員
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(洋画)	2	1・2	相模原	福士朋子、大森 悟、山内 隆
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(日本画)	2	1・2	相模原	稲田亜紀子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(版画)	2	1・2	相模原	清水美三子、阿部大介
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(染織)	2	1・2	相模原	渡邊三奈子、荒 姿寿
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(刺繍)	2	1・2	相模原	大崎綾子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(陶)	2	1・2	相模原	吉田潤一郎
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ガラス)	2	1・2	相模原	工藤 直
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(立体芸術)	2	1・2	相模原	平戸貢児
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(メディア)	2	1・2		杉並 浅野正博
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ヒーリング)	2	1・2		杉並 野呂田理恵子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ファッションテキスタイル)	2	1・2		杉並 山村美紀
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ビジュアルデザイン)	2	1・2	相模原	林 規章
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(プロダクトデザイン)	2	1・2	相模原	廣田尚子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(環境デザイン)	2	1・2	相模原	飯村和道

内容等はポータルサイト「シラバス」を参照し、履修を希望する場合は、Web履修登録する前に、授業の時期・内容などについて担当教員・研究領域に必ず事前相談してください。

■海外芸術プログラム

一定の条件を満たした海外大学における研修または留学に対する学修に対して単位を認定する科目です。内容・履修についてはポータルサイト「シラバス」を参照してください。

〔複数履修可能な科目〕

以下の科目は、同一科目名でも複数履修することが可能です。また過去に単位修得した科目でも年度が変わって再度履修することが可能です。

共通実技科目「海外芸術プログラム」

研究関連科目「社会芸術プログラム」

〔受講するために単位修得前提科目がある科目〕

以下の科目は、受講のためには同じ科目名の「Ⅰ」の科目を単位修得していなければ受講することができません(履修登録は同時にすることが可能です)。

研究関連科目「染織品保存修復演習Ⅱ」、「メディアコミュニケーション特論Ⅱ」、

「繊維衣服表現演習Ⅱ」、「アートプロデュース演習Ⅱ」、「芸術表象特講Ⅱ」

共通理論科目「デザイン原論特講Ⅱ」、「色彩工学特講Ⅱ」

〔大学院生の学部科目履修〕

学芸員課程や教職課程履修を希望し学部科目の履修が必要な場合と、留学生で学部科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」の履修を希望する場合(国際センター4月実施のテスト結果により履修指導があった場合を含む)は履修ガイダンスで配布される履修願を期日までに提出してください。なお、修得単位は修了要件単位には含まれません。

教員免許状の資格取得

本学大学院では次のとおり教員免許状を取得することができます。

研究科・専攻	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
美術研究科	美術専攻	美術 工芸
	デザイン専攻	美術 工芸
	芸術文化専攻	美術 工芸

専修免許状を取得するためには、「教育職員免許法」、「同法施行規制」により基礎となる一種免許状を有するとともに、さらに大学院において教職に関する科目又は教科に関する科目を24単位以上修得しなければなりません。

専攻・研究領域毎に履修方法が異なるので、次ページ以降の研究領域別履修表を熟読して履修計画を立ててください。

教員免許状の申請手続等

教員職員免許法に定められた科目・単位を修得した者には、免許状が授与されます。

教員免許状の申請は本来申請者が免許法に定める「基礎資格」および「所要単位」を修得した後、各自で居住地の都道府県教育委員会（授与権者）に申請手続をすることが建前となっています。

事務処理の都合から、県内に所在する大学院を修了する者が大学を通して一括申請する場合に限り、修了時に免許状を授与する制度をとっています（一括申請）。したがって、一括申請をしなかった場合はすべて大学院修了後各自で、居住地の教育委員会に申請することになります（個人申請）。個人申請の場合、免許状の交付が遅れ、4月から教員採用が決まっている者は、就職に支障をきたすことになるので注意してください。

一括申請の申込みは大学院の2年次に受付けます。受付日等は5月頃掲示で発表します。

免許状取得後

免許状取得後、免許状に係る事務はすべて授与権者である都道府県教育委員会が行うことになります。したがって、下記の事項については直接授与権者に申請してください。

- 免許状の書きかえ（改姓、本籍変更等）
- 免許状再交付（盗難、火災による場合は証明書が必要）
- 免許状授与証明書

教員採用試験

大学院修了後、公立学校の教員を希望する場合は、都道府県および市の教育委員会で実施する公立学校教育職員採用試験を受験しなければなりません。

試験日は一定していませんが、多くは7月～8月に実施されています。詳細は本学キャリア支援センターで実施要項等を参照してください。

【美術専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、デザイン専攻および芸術文化専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了のために必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	洋画			日本画		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	洋画創作研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)				
	洋画創作研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)				
	日本画創作研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	
	日本画創作研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【美術専攻】

授業科目名		単位数	版画			工芸（染・織）		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	版画創作研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)				
	版画創作研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)				
	工芸創作研究Ⅰ	8				●(必修)		△(必修)
	工芸創作研究Ⅱ	8				●(必修)		△(必修)
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●(必修)		△(必修)
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【美術専攻】

授業科目名		単位数	工芸（陶）			工芸（ガラス）		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	工芸創作研究Ⅰ	8	●（必修）		△（必修）	●（必修）		△（必修）
	工芸創作研究Ⅱ	8	●（必修）		△（必修）	●（必修）		△（必修）
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●（必修）		△（必修）	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●（必修）		△（必修）
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【美術専攻】

授業科目名		単位数	工芸（刺繍）			立体芸術		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	工芸創作研究Ⅰ	8	●(必修)		△(必修)			
	工芸創作研究Ⅱ	8	●(必修)		△(必修)			
	立体芸術創作研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	立体芸術創作研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【デザイン専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、美術専攻および芸術文化専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了のために必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	メディア			ヒーリング		
			中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	メディア研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	メディア研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	ヒーリング研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	ヒーリング研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	インタラクティブ空間演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●	◎	△	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	画像研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	形態研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
空間構造演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【デザイン専攻】

授業科目名		単位数	ファッションテキスタイル			アートプロデュース		
			中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	ファッションテキスタイル研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	ファッションテキスタイル研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	アートプロデュース研究Ⅰ	4				●(必修)	◎(必修)	
	アートプロデュース研究Ⅱ	4				●(必修)	◎(必修)	
	キュレーション研究Ⅰ	4				●(必修)	◎(必修)	
	キュレーション研究Ⅱ	4				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	インタラクティブ空間演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	画像研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	形態研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
空間構造演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【デザイン専攻】

授業科目名	単位数	ヴィジュアルデザイン			プロダクトデザイン			環境デザイン			
		中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	
		●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	
研究指導科目	ヴィジュアルデザイン研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)						
	ヴィジュアルデザイン研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)						
	プロダクトデザイン研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	プロダクトデザイン研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	環境デザイン研究Ⅰ	8							●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	環境デザイン研究Ⅱ	8							●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	インタラクティブ空間演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	画像研究演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	形態研究演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
空間構造演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△			△
	デザイン史特講	2			△			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎		●	◎	
図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△	
現代文化論	2	●	◎		●	◎		●	◎		

【芸術文化専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、美術専攻およびデザイン専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了の為に必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	色彩学			美術史		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	色彩学研究Ⅰ	4	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	色彩学研究Ⅱ	4	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	美術史研究Ⅰ	4				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	美術史研究Ⅱ	4				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	色彩学特殊研究A	4	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	色彩学特殊研究B	4	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	美術文化特殊研究A	4				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	美術文化特殊研究B	4				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	色彩管理演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	色彩実験・調査演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	視覚工学演習	2	●	◎		●	◎	
	視覚デザイン演習	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論A	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論B	2	●	◎		●	◎	
	鑑定分析論	2	●	◎		●	◎	
	文芸創作演習	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	美術教育基礎演習	2	●	◎		●	◎	
	デザイン教育基礎演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	美術教育論特講A	2	●	◎		●	◎	
	美術教育論特講B	2	●	◎		●	◎	
	映像メディア教育特論	2	●	◎		●	◎	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【芸術文化専攻】

授業科目名	単位数	芸術表象			美術教育			
		中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	
		●から 24 単位以上	◎から 24 単位以上	△から 24 単位以上	●から 24 単位以上	◎から 24 単位以上	△から 24 単位以上	
研究指導科目	芸術表象研究 I	4	●(必修)	◎(必修)				
	芸術表象研究 II	4	●(必修)	◎(必修)				
	美術教育研究 I	4				●(必修)	◎(必修)	
	美術教育研究 II	4				●(必修)	◎(必修)	
	美術文化特殊研究 A	4	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	美術文化特殊研究 B	4	●(必修)	◎(必修)				
	美術教育特殊研究 A	4				●(必修)	◎(必修)	
	美術教育特殊研究 B	4				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	色彩管理演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	色彩実験・調査演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	視覚工学演習	2	●	◎		●	◎	
	視覚デザイン演習	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論 A	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論 B	2	●	◎		●	◎	
	鑑定分析論	2	●	◎		●	◎	
	文芸創作演習	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講 I	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講 II	2	●	◎		●	◎	
	美術教育基礎演習	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	デザイン教育基礎演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	美術教育論特講 A	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	美術教育論特講 B	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	映像メディア教育特論	2	●	◎		●	◎	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講 I	2			△			△
	デザイン原論特講 II	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講 I	2			△			△
	色彩工学特講 II	2			△			△
	日本美術史特講 A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講 B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講 A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講 B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講 A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講 B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアート A	2	●	◎		●	◎	
	言語とアート B	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では、日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	科目	博物館法施行規則による 必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	2	半期・必修
	博物館経営論	2	2	1	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で1年次の「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」をすべて修得済みであることを、履修の条件とする。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では、日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	科 目	博物館法施行規則による 必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	1	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	1	半期・必修
	アートプロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	半期・必修
	映像文化概論	博物館情報・ メディア論 2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で1年次の「生涯学習概論」「ミュージアムスタディ概論」「博物館資料論」「アートプロデュース概論」「映像文化概論」をすべて修得済みであることを、履修の条件とする。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

博士前期課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院 美術研究科 博士前期課程（共通）

- ・芸術に関する深く幅広い学識と技術を有しているか。
- ・幅広い視野と芸術的発想力を持ち、問題意識を持って課題に対して柔軟・積極的に取り組めるか。
- ・豊かな表現力を持つとともに知識への深い探究心を備えているか。
- ・作家、研究者、教育者、企業人等高度な専門家として社会に貢献できるか。

美術専攻

- ・創作研究のテーマが確立しているか。
- ・創作研究においてテーマに即した構成力、技術・素材の使用法、表現方法を習得したか。
- ・段階的思考がテーマに対して積み重ねられ、その思考法を習得したか。
- ・学内・学外への作品発表に意欲的に取り組んだか。

デザイン専攻

- ・デザイン研究のテーマが確立されているか。
- ・研究テーマに論理的な分析が行われ、デザイン理論の構築、実技の専門性を深めているか。
- ・デザインの目的や対象が多様化する現代社会において、独自の視点からデザインを創作しているか。

芸術文化専攻

- ・美術における伝統と創造の価値を統合する理論的な枠組みを構築することができたか。
- ・多様な今日的視点から美術についての理論的な分析を行うことができたか。
- ・色彩・美術史・芸術表象・美術教育に関する高度で多面的な研究を行うことができたか。

博士前期課程 研究指導及び学位審査要綱

本要綱は本学大学院学生の修士論文又は修士作品制作に係る研究指導及び学位審査等について学則及び学位規程に基づき必要事項を定める。

1. 研究指導

美術専攻

<洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士作品を作成する。

デザイン専攻

<メディア・ヒーリング・ファッションテキスタイル・アートプロデュース>

<ヴィジュアルデザイン・プロダクトデザイン・環境デザイン>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文又は修士作品を作成する。

芸術文化専攻

<色彩学・美術史・芸術表象・美術教育>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文を作成する。

2. 修士論文又は修士作品は指定された期日までに所定の学位申請書(様式1)とともに提出すること。修士論文には表紙(様式2)をつけるとともに論文要旨(A4・400字詰5枚、ワープロの場合40字×30行・2,000字程度)(様式3)を同時に提出することとする。修士作品は、修士作品要旨(A4・400字詰2枚、ワープロの場合40字×20行・800字程度)(様式3)を同時に提出することとする。修士論文・論文要旨・修士作品要旨等は日本語とする。主査の特別な許可がある場合は、修士論文を英語で作成することを許可する。主査の指示に従うこと。
3. 研究科委員会は、提出のあった修士論文又は修士作品ごとに審査を行うために3名以上の審査委員を選定する。
4. 審査委員は1名を主査、その他を副査として審査及び最終試験を行い、その結果を文書をもって研究科委員会に報告するものとする。最終試験は修士論文又は修士作品を提出した者に対し、論文あるいは作品を中心として口頭又は筆記により行う。
5. 研究科委員会は、前項の報告に基づき、課程の修了の合格又は不合格を決定する。
6. 課程を修了した者の修士論文あるいは修士作品は、論文にあっては正本、作品にあってはその要旨及び写真を本学において保存する。

(様式1)

年 月 日

女子美術大学大学院
美術研究科長殿

研究科長	教育支援 センター

学 位 申 請 書

本学 学位規程により修士論文（作品）を添えて学位を申請します。

論文名
作品名

専 攻		研究領域	
氏 名		出席番号	

指導教員名

(注) 指導教員は主たる指導教員名を記入すること。

(様式2)

年度 学位請求修士論文

指導教員名 _____

論文名

(英文表記)

女子美術大学大学院

美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏名

(英文表記

)

(注) 指導教員は主たる指導教員名を記入すること。

修 士 論 文 要 旨

論文名

(英文表記)

女子美術大学大学院
美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏 名

(英文表記

)

修 士 作 品 要 旨

作 品 名 _____

(英文表記) _____

女子美術大学大学院
美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏 名

(英文表記)

博士後期課程

博士後期課程の特色および教育課程

現代社会は、技術革新、情報化、国際化、そしてそれに伴う社会意識の多様化など変容を続けています。美術の世界もまた、情報技術の高度化と普及とに象徴される科学技術の進歩を背景として、伝統的なジャンルの境界は希薄になり、「美術」と称される領域は拡大し続けています。このような社会構造の変化と美術自体の内包の変化とが相俟って、社会における美術への期待は今後ますます高まっていくものと思われれます。

こうした動向に対応して、美術大学はいかなる研究・教育を展開すべきかを考え、以下に掲げる人材養成の目標をもって、博士後期課程美術専攻内に「美術研究領域(洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術)」「デザイン研究領域(ヒーリング造形・視覚造形・環境造形)」「芸術文化研究領域(色彩学・美術史・芸術表象・美術教育)」の3研究領域を設置しています。

■作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者の養成

従来、実技と理論研究は相容れないものとして対置されてきたきらいがあります。たしかに創造の成果を、前者は実体的なかたちを通して、後者は文章や数式など主に抽象的な記号を通して、それぞれ表現します。しかし表現の方法は異なっても、両者の間には創造の原理やメカニズムに関して強い共通性が認められます。したがって、制作体験を積んだうえでの理論研究という視点は十分成立しうると考えられ、そこには互いに補い合う価値の創造とともに、新しい理論構築の可能性すら予見されます。

制作の過程はとかく個人的な体験の範囲内に据え置かれる感がありますが、上述の考えにしたがえば、制作の実践を客観化し一般化することによって、社会的に共有し継承していくことが可能になるのです。またこうした研究を通じて、制作者は理論的・体系的哲学を有する制作者となるにとどまらず、制作者と享受者とを結ぶ媒介者となることも期待されます。

作品を見る深く確かな目を持ち、かつ美術の教育普及活動に情熱を持つ人材の養成をも目指したいと考えます。

■社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術をもつ人材の養成

今日の学問領域は、現代社会の動向とも密接に関係しており、従来のアカデミズムの枠組みにとどまることなく、社会情勢から現出する問題意識に、即座に立ち向かう柔軟性と積極性を有する人材も必要とされています。そして、このような要請にこたえることのできる能力は、さまざまな社会活動への参画と実践を通して、研究と制作を行っていくことから育成されます。

企業や公共機関などにおいて、さまざまな変化に柔軟に対応できる専門職、民間の小組織やNPOなどにおいて、新たな価値観を創出できる専門家や起業家、あるいは高等教育機関の教員として活躍する人材を輩出することを目指して、企画立案力や他分野の専門家との協働能力をもあわせもつ、高度な専門知識・技術を有する人材の育成を行いたいと考えます。

■幅広くかつ堅実な方法論をもつ造形理論研究者の養成

社会、芸術、そして学問の世界に大きな変革がもたらされている時代にあって、とりわけ冷静で幅広い視野からの理論研究、理論構築、法則性の追求などが必要となります。造形理論研究のいずれの分野においても、近年、研究の対象は変容しつつ拡大しており、研究方法もますます学際的・超域的になっています。

これからの理論研究者には、堅実な方法論を土台にした沈着冷静さとともに、従来の学問領域にとらわれることなく、人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの成果を採り入れることのできる柔軟さと大胆さが求められます。人文科学に軸足を置くにせよ自然科学に軸足を置くにせよ、基本的な思考法を異にした専門家が協働して研究と指導を展開することにより、さらには美術大学の利点と特性を最大限に生かすことにより、広範な方法論と思想、そして実践を導入した造形理論の研究が可能になると思われます。異質の分野で醸成される多様なものの共存から、技術革新、社会変化、表現の拡大に十分対応しうる新たな理論研究者を養成したいと考えます。

美術研究領域（洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術）

これまで美術教育においては、実技と学科の区分けがなされ、二極的な構造で進められてきました。しかし、「新たな価値の創造」が求められている今日、創造の原理に両者の違いはなく、相互に補いながらその刺激を共有することこそが必要だと考えられます。そこで、制作体験を積んだ上での理論研究が重要になってきます。また、美術における伝統的なジャンルの境界がなくなりつつある状況のもとでは、理論的・体系的な「哲学」をもつ制作が期待されます。こうした背景のもとに、美術研究領域では新たな造形表現のあり方を追求し、理論と制作の双方から実践的作家の養成を目標にした指導を行います。洋画では、芸術の本質的問題としての描く喜び、創る楽しさを根源的精神行為と捉えて、現代世界に向き合おうとしています。日本画では、伝統を含蓄した新しい日本画を目指すなかで、真の個性を磨き、創造の本質に迫ります。版画では、版表現とそれにかかわる技術を軸として研究し、各自の主体性に基づき現代の版画独自の専門性を追求します。工芸では、創作研究をさらに明確化し、我々を取り囲む工芸の多様性と可能性について比較検証し工芸造形の本質を見極めるための制作活動を確立します。立体芸術では、自らが自己の表現の為に選択した素材に対する研究を深め、新しい表現への果敢な挑戦を試み、立体芸術の可能性を探ります。美術研究領域の5分野のいずれにおいても、博士前期課程での結実を基にしてこの博士後期課程でさらなる深化を計り、美術界に新しい価値の発信ができる作家を育成指導するという視点は同一です。

デザイン研究領域（ヒーリング造形・視覚造形・環境造形）

デザインは古今東西のあらゆる時代、社会との関わりの中で形成されています。それゆえ現代社会のニーズに対応した創造的作品制作と理論研究との融合による高度な論理的背景を持ったデザイナー、クリエイター、研究者、教育者などの指導的な立場となる人材育成を目指します。デザイン領域は、インターフェイスの視覚造形、インタラクティブ、インタリレイションの環境造形、インターマインドのヒーリング造形の3領域に分かれています。それぞれの領域において実践的デザイン、創作活動を通じて最先端の分野から基礎的分野にいたる様々な分野における新しい理論と方法論の構築を試みさせ、論文作成に結びつけます。

プロセスとしては以下の項目を最短3年の課程で計画し、指導を行います。

1. 研究テーマ設定
2. 既往研究（既存の関連するデザイン作品、研究論文など）
3. 仮説構築
4. 作品創作
5. 理論、方法論の検証（データ収集）
6. 新理論、方法論の構築と実証
7. 論文作成（査読付学会発表）
8. 論文審査
9. 論文公表

研究方法は、専門領域の複数の教員が、各学生の特性に対応し、密度の高いコミュニケーションを取りつつ適切に指導します。

芸術文化研究領域（色彩学・美術史・芸術表象・美術教育）

芸術文化研究領域には、色彩学、美術史、芸術表象、美術教育の研究分野があります。いずれも超域的研究を志向しており、堅実な方法論を基礎としながら、様々な領域とのコラボレーションが可能となるような柔軟な思考力を備えた研究者の養成を目指します。

色彩学は造形研究の主要な一部門ですが、物理学・化学・生理学・心理学・美学等からアプローチすることができる研究分野であると同時に、色彩研究の成果は製品の開発や環境の設計などにも不可欠な技術として発達してきました。したがって、幅広い視野と基礎的な知識を前提にして、高度に専門的な研究が行われます。指導内容としては、表色・測色など物理的立場からの研究、色彩感情・色知覚・色カテゴリーなど心理的立場からの研究、色彩概念・色彩発達史など文化論的立場からの研究、色彩計画などデザイン理論的立場からの研究があります。

美術史では、東西にわたる美術史学の長年の研究成果を継承するとともに、近年進展しつつある新たな研究の視点・方法を取り入れた指導を行います。したがって、一方では記録・文献類の正確な読解・批判、作品の実証的な考察によって厳密な研究姿勢を養います。また他方では、社会史・思想史・文芸批評等隣接領域の方法論や成果を積極的に取り上げ、幅広い視野と認識から美術史に対する研究の多様な可能性を探っていきます。さらに、自然科学的調査の結果を有効に活用できる人材の養成をも目指します。芸術表象では、同時代の先端的な表現を基軸にししながら、それを支える社会思想、哲学、分析理論について研究を行います。カルチュラル・スタディーズ、ポスト・コロニアル思想、フェミニズム・ジェンダー・ゲイ研究、コミュニケーション理論、地域・コミュニティ学、利他行動など、現代の重要な思想的切り

口を学び深めるだけでなく、その積極的な活用を試みます。また、必要に応じて種々の実践にも取り組み、机上の構想・分析だけでなく、実践への応用に柔軟に対応できる理論家の養成を目指します。美術教育では、美術の教育的意義や美術教育の方法論について研究します。これまで美術教育は「実践」であり体系的な「学問」とはいいがたい面がありました。また、美術教育に関する理論的研究も、どちらかというとな哲学的な考察が中心で、データに基づく実証的・客観的な研究手法はとられていませんでしたが、本研究分野ではこれまでの人間学的・教育学的な研究に加えて認知心理学的なアプローチも加味し、美術のもつ「力」を実証的に研究します。

大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻

博士後期課程は「作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者」「社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術を持つ人材」「幅広くかつ堅実な造形理論研究者」を養成することを目的としてカリキュラムを編成する。

- ・円滑な研究活動を行うため、「造形研究計画演習」において、学生の研究計画の立案に取組み、主任指導教員と理論系教員が関わり指導を行う。「造形理論特別研究」にて、理論研究の方法論を会得するとともに、「特殊研究」により深く体系的な研究に取り組む。
- ・研究の集大成として、博士論文と修了制作（実技系分野のみ）に取り組む。研究を通して、自立して研究活動を継続展開できる能力を身につける。

「美術研究領域」

- ・専門的な作品制作と理論を統合した研究を行う。それに伴い、指導的役割を果たし得る情熱を持った制作者・教育者の養成のために洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術の研究分野での研究指導を行う。

「デザイン研究領域」

- ・デザインに対する幅広い視点とより高い専門性を探求しそれらを養う為に、学位を保持する複数分野の教員による指導を行う。
- ・学生が既存のデザインの研究を踏まえ新しい知見の発見や理論構築を積極的に取り組む指導を行う。
- ・「人と人のコミュニケーション」「人とモノのインタラクティブ」「人と空間のインタリレーション」などのデザイン分野の専門性と相関性を考慮し、系統だった研究指導を行う。

「芸術文化研究領域」

- ・従来の堅実な研究方法論を基礎としながら、様々な周辺領域の研究とのコラボレーションが可能な柔軟な思考力を備えた研究者の養成を目指す。
- ・基礎から応用まで幅広い視点を持ち、高度に専門的な研究の行える人材の育成を目指す。
- ・長年の研究を継承するとともに新たな研究の視点・方法を採用入れ、厳密な研究姿勢とともに新しい研究の多様性にも対応する指導を行う。

博士後期課程 教育課程の構成

博士後期課程は、次の4つのカテゴリーによってカリキュラムを構成している。

(1) 造形研究計画演習

学生が、自らの研究計画の基本的枠組みを立案することを目的とする科目である。主任指導教員を中心として複数教員が担当し、個々の学生のそれまでの研究成果に応じて計画の立案を指導する。主任指導教員以外の構成については、それまで実技を中心として習得してきた学生については、理論系教員が加わり、理論的研究の進め方について指導するよう配慮する。また、理論研究を中心として行ってきた学生については、必要に応じて実技系教員が加わり、制作者の発想方法・制作過程・芸術界の最新動向などについて深い理解がもてるように配慮する。

(2) 造形理論特別研究

理論研究の方法論を会得することを目的とした科目群である。国内外の文献研究や実証研究の方法論について、美術・デザイン・芸術文化の3分野において基本となる内容を研究する。分野や方法論ごとの複数科目群で構成し、研究における新たな発想や課題を得るために、複数科目を履修することを求める。

(3) 特殊研究

特定分野について、より深く体系的に研究することを目的とする科目である。主任指導教員の研究に参画することによって、その分野における最先端の事例や動向について理解する。研究分野によって、美術特殊研究、デザイン特殊研究、芸術文化特殊研究の3科目から選択する。

(4) 研究指導

各学生の研究テーマに応じて博士論文作成と修了制作（実技系分野のみ）を行う科目である。自立した創造性豊かな研究者・制作者・指導的専門家として研究活動を継続展開させていく能力を身につけることを目的とする。研究分野によって、美術研究指導、デザイン研究指導、芸術文化研究指導の3科目から選択する。

博士後期課程の教育課程および教員組織

美術専攻

授業科目名	授業を 行う 年次	単位数		担当教員	備考	
		必修	選択			
造形研究計画演習	1	4		全教員で担当		
造形理論特別研究	造形理論特別研究Ⅰ	1・2		2	関 直子 稲木 吉一	2科目4単位選択必修
	造形理論特別研究Ⅱ	1・2		2	横山 勝樹 山野 雅之	
	造形理論特別研究Ⅲ	1・2		2	前田 基成 杉田 敦	
特殊研究	美術特殊研究	1・2		2	大森 悟 福士 朋子	2単位選択必修
	デザイン特殊研究	1・2		2	横山 勝樹 川口 吾妻	
	芸術文化特殊研究	1・2		2	稲木 吉一 前田 基成 杉田 敦	
研究指導	美術研究指導	1～3			大森 悟 福士 朋子 村岡貴美男 岸野 香 宮島 弘道 清水美三子 藤倉久美子 平戸 貢児	
	デザイン研究指導	1～3			山野 雅之 横山 勝樹 川口 吾妻	
	芸術文化研究指導	1～3			坂田 勝亮 稲木 吉一 関 直子 杉田 敦 前田 基成	

修了の条件

修了のためには必修および選択必修科目をあわせて10単位以上修得し、かつ研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。

博士後期課程 履修登録

I 履修関係書類の交付

1～3年次とも4月の各領域別オリエンテーションの際に「履修の手引」等を配布します。2・3年次生は「前年度の成績通知書」も併せて配布します。なお、「履修科目申請書」はⅢ履修科目の登録に示す日時・場所で配布します。

II 履修計画の立案、決定

「履修の手引」等により、今年度の履修計画を立ててください。授業科目の授業内容についてはポータルサイトの「シラバス」を参照してください。

III 履修科目の登録（履修科目申請書提出）

次の日時に「履修科目申請書」を交付しますので、期日までに必ず提出してください。

（相模原キャンパス）

○1年次 …… 4月6日（土）3時限 履修ガイダンス説明会場

○2・3年次 …… 4月8日（月）5時限 研究室

（杉並キャンパス）

○1～3年次 …… 4月10日（水）1時限 領域別オリエンテーション

提出場所：教育支援センター

提出期間：4月6日（土）～20日（土）

記入上の注意

- ① 申請は担当教員と授業の科目・内容等を十分確認の上、曜日・時限を記入し確認印をもらってください。
- ② 各研究領域1年次必修「造形研究計画演習」の担当教員欄は原則、主指導・副指導教員を記入してください。
- ③ 各研究領域必修の「研究指導」科目の履修年次については、指導教員に確認してください。また、履修する場合は必ず登録してください。
- ④ 「履修科目申請書」は、十分確認した上で提出してください。

IV 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① 履修届を教育支援センターにて受け取り、「履修科目申請書」に記入した全科目が表示されているか、科目等の登録漏れがないかを各自で十分確認してください。
- ② 受け取った履修届に、訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ③ 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

博士後期課程 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻

- ・研究テーマと内容に独創性と社会的意義があり、新たな理論・表現を構築したか。
- ・研究成果を国内外のコンクールや個展、学会等を通して社会に還元し、高い評価を得たか。
- ・国際的な視点に立ち、芸術に関する学識や技術を自立して探求し続けられるか。
- ・作家、研究者、教育者、企業人等高度な専門家として社会に貢献できるか。

博士後期課程 学位審査要綱

女子美術大学学位規程第5条に基づく博士論文の審査については、学位規程によるほか、この要綱の定めるところによる。

1. 課程博士の学位を申請することのできる者は、博士後期課程に在学し、必要な研究指導を受け、かつ所定の単位を修得見込み又は修得した学生とする。論文博士の学位を申請することができる者は大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有する者とする。
上記にかかわらず、博士後期課程に3年以上在学し、退学した者が、退学時より3年以内に学位論文を提出した場合は学位規程第3条第3項該当者として取り扱うことができるものとする。
2. 前項の申請にあたっては、課程博士は所属する又はしていた研究領域の研究指導教員、論文博士は関連する本学の研究領域の研究指導教員の承認をあらかじめ得ているものとする。
また、申請時に3点以上の公表された査読付き論文（本申請までに公表が確定予定のものを含む）があること。ただし、研究領域「美術」及び「デザイン」については学位申請に係わる研究作品の審査を受けて認められた場合は1点以上とする。
3. 課程博士の学位申請は、予備申請と本申請とし、申請にあたっては指導教員から学位論文の内容、体裁などについて検討を受けた上で、当該研究科長の指定する期日までに行うものとする。
予備申請による予備審査を経て、審査委員に認められた者が本申請を行うものとする。
4. 課程博士の学位を申請しようとする者は、所定の期日までに学位申請書とともに次の(1)～(4)号について日本語で作成し各3通当該研究科長に提出すること。主査の特別な許可がある場合は、(1)を主査の指示に従って英語で作成することを許可する。また、論文博士の学位を申請しようとする者は、学長に提出すること。
 - (1) 博士論文等
 - (2) 博士論文要旨(4,000字程度)
 - (3) 業績目録
 - (4) 履歴書
 - (5) 学位申請誓約書
 - (6) 博士論文・博士論文要旨等の指定形式データ
 - (7) 学位論文審査手数料(論文博士のみ)博士論文等とは研究領域「芸術文化」においては博士論文をいう。研究領域「美術」及び「デザイン」においては博士論文及び研究作品をいう。
公表された査読付き論文（本申請までに公表が確定予定のものを含む）のうち5点以内を添付すること。
5. 研究科委員会は提出のあった博士論文ごとに審査を行うために3名以上の審査委員を選定する。
ただし、研究領域「美術」及び「デザイン」においては、審査委員に研究領域「芸術文化」から1名副査を選定する。
6. 審査委員は1名を主査、その他を副査として審査及び最終試験を行う。
課程博士の最終試験は論文等を中心として口述又は筆記により行う。なお、博士後期課程の単位修得後満期退学し、学位申請する場合、退学後6年以上の者には博士論文の他、口述試験及び外国語試験を課すこととする。論文博士申請者に対してはさらに外国語試験を課すこととする。
公開の論文発表会を行う。研究領域「美術」及び「デザイン」は学位申請に係わる研究作品の公表を本学美術館で行う。
審査委員は、その結果を文書にて研究科委員会に報告するものとする。
学位論文は合格の内示後、縦覧を行うものとする。
7. 研究科委員会は前項の報告に基づき、合格又は不合格を決定する。
合格の議決を行う場合は、研究科構成員（出張中の者及び休職中の者を除く）の3分の2以上が出席し、かつ出席者の4分の3以上が賛成しなければならない。

研究科長	教育支援センター	指導教員	印
		承認印	印

年 月 日

女子美術大学大学院
美術研究科長 殿

申請者
入学年度 年度
出席番号
美術研究科 美術専攻

氏 名 印

学 位 申 請 書

本学学位規程により下記のとおり博士論文に関係書類を添えて学位を申請します。

論 文 題 目	

記

- 1 博士論文等 (A4版)
- 2 博士論文要旨 (4000字程度)
- 3 業績目録
- 4 履歴書

注) (1) 既に発表された自著論文は別刷りで代えることができる。

(2) 論文の題名が外国語の場合は日本語で訳文 () を付して記入すること。

博 士 論 文 要 旨

(4000 字以内)

報 告 番 号	甲第	号	氏 名	
---------	----	---	-----	--

(題 目)

(要 旨)

業 績 目 録

女子美術大学

報 告 番 号	甲 第 号	氏 名	
論文等名、刊行物の名称、巻、号、発行所、発行年月			

- 備考 (1) 印刷公表の方法及び時期については、公表予定の場合も記入すること。
(2) 論文の題名が外国語の場合、和訳を () で付記すること。

履 歴 書

報告番号	甲第 号
ふりがな 氏 名	男 女
生年月日	年 月 日
本 籍	
現 住 所	
最終学歴 年月日	年 月 日 女子美術大学大学院美術研究科 美術専攻博士後期課程
研 究 歴 年月日	
職 歴 年月日	

女子美術大学大学院
美術研究科長 殿

学位申請 誓約書

私は学位申請に伴い、下記を誓約いたします。

記

1. 学位申請に虚実や詐称のないこと。
2. 学位申請に関する手続き等について、指導・指示に従い、円滑に取り組むこと
3. 博士論文等※は個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成しており、定められた記載方法で引用し、写真や図表について著作権者の許諾を得た上で掲載していること。
4. 博士論文を女子美術大学図書館に保存することを承諾していること。
5. 博士論文を教育、研究を目的とした閲覧、複写に供することを承諾していること。
6. 博士論文要旨の公表は研究科委員会の定める方法でインターネット公表されることを承諾していること。
7. 前項の公表データは、個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成しており、引用や転載については「公衆送信権」「送信可能化権」を侵害しないよう著作権者の承諾を得た上で掲載していること。
8. 博士の学位が授与された者が1年以内に行う博士論文の公表については、研究科委員会の定める方法に従って自ら準備し、インターネット公表されることを承諾していること。
9. 前項の公表データは、個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成、引用や転載については「公衆送信権」「送信可能化権」を侵害しないよう著作権者の承諾を得た上で掲載すること。
10. 学位申請に係わる博士論文等や公表データ等において、個人情報、著作権等での問題・訴訟等が発生した際、自らの著作物として責任と自覚を持って対処すること。大学および指導者に責任・補償等を求めないこと。
11. 本誓約書を違約した場合、学位審査の中止される場合があることを承諾していること。また、女子美術大学学位規則第13条に基づき学位の取消しとなった際は、学位記を返付すること。

※研究領域「芸術文化」においては博士論文、研究領域「美術」及び「デザイン」においては博士論文及び研究作品。

博士後期課程 美術専攻

研究領域	
学籍番号	
氏名	(自著)

規 則

女子美術大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 女子美術大学大学院（以下「本大学院」という）は芸術及びその理論を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行う。これについては別に定める。

第2章 組織

(研究科)

第3条 本大学院に美術研究科を置く。

(課程)

第4条 研究科における課程は博士課程とする。

2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取扱うものとする。

3 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識と技術を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

このことにより、芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した専門家、作家、研究者及び教育者を養成する。

4 博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。このことにより、幅広くかつ堅実な方法論をもつ造形理論研究者、作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者及び社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術を持つ人材を養成する。

(専攻及び学生定員)

第5条 研究科の専攻及び学生定員は次のとおりとする。

研究科名	博士前期課程			博士後期課程		
	専攻名	入学定員	収容定員	専攻名	入学定員	収容定員
美術研究科	美術専攻	35	70	美術専攻	3	9
	デザイン専攻	15	30			
	芸術文化専攻	7	14			
合計		57	114		3	9

第3章 職員組織

(職員組織)

第6条 本大学院に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

(研究科長)

第7条 研究科に科長を置く。

第4章 研究科委員会

(研究科委員会)

第8条 研究科に研究科委員会を置く。

2 研究科委員会は、学長及び研究科の授業を担当する専任の教授、准教授、助教をもって組織する。

3 研究科委員会が必要と認めた場合は、前項に掲げる者以外の者を研究科委員会に出席させて意見を述べさせることができる。

4 研究科委員会の招集は学長が行い、研究科長が議長となる。

5 研究科委員会に関する規則は別に定める。(審議事項)

第9条 研究科委員会は次の事項を審議する。

一 教授及び研究に関すること

- 二 教育課程及び履修方法に関する事
- 三 主要年中行事及び日程に関する事
- 四 学生の指導及び賞罰に関する事
- 五 入学試験に関する事
- 六 入学、退学、休学、転学、留学、復学及び課程の修了に関する事
- 七 学位に関する事
- 八 各種奨学生に関する事
- 九 学則その他制規に関する事
- 十 教員の人事に関する事
- 十一 その他研究科の運営に関し、重要な事

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第10条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第11条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

創立記念日（10月30日）

春期休業（4月1日から4月15日まで）

夏期休業（7月11日から9月10日まで）

冬期休業（12月25日から翌年1月7日まで）

2 学長は研究科委員会の議を経て、前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第13条 博士前期課程の標準修業年限は2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

(在学年限)

第14条 学生は、博士前期課程にあつては4年、博士後期課程にあつては6年を超えて在学することはできない。ただし、第20条および第21条の規定により入学した者は同条第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第7章 入学

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第16条 博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、女子に限らないものとする。

- 一 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者
- 二 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又はこれに準ずる者
- 四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 五 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

- 六 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - 七 文部科学大臣の指定した者
 - 八 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - 九 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - 十 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、女子に限らないものとする。
- 一 修士の学位又は専門職学位を有する者
 - 二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 五 文部科学大臣の指定した者
 - 六 本大学院において、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- （入学の出願）
- 第17条 入学を志願する者は、入学願書に別表第2に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。
- （入学者の選考）
- 第18条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
- （入学手続及び入学許可）
- 第19条 前条の選考に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他所定の書類を提出するとともに、別表第2に定める入学料を納付しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
- （再入学）
- 第20条 本大学院を退学した者で、本大学院に再入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
- 2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。
- （転入学及び編入学）
- 第21条 他の大学の大学院から転入学又は編入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。ただし、女子に限らないものとする。
- 2 前条第2項の規定は本条において準用する。

第8章 教育課程及び履修方法

（授業科目、単位数及び履修方法）

第22条 研究科において開設する授業科目、単位数及び履修方法は別表第1のとおりとする。

（研究指導）

第23条 学生は履修する授業科目の選択及び修士論文又は修士作品（以下「修士論文等」という）あるいは博士論文の作成にあたり、担当教員による指導（以下「研究指導」という）を受けなければならない。

（単位の授与）

第24条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（他大学院等における授業科目の履修）

第25条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生は当該他大学院の授業科目を履修することができる。

2 前項による修得単位については10単位を超えない範囲で認定する。

(研究指導の委託)

第25条の2 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生に他大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。

(既修得単位の認定)

第26条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に大学院において修得した授業科目の単位を本大学院において修得したものとして、認めることができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 前項による修得単位については10単位を超えない範囲で認定する。

(他専攻及び学部開設科目の履修)

第27条 研究科委員会が必要を認めた場合、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目及び単位を修得することができる。

(学習の評価)

第28条 試験等の評価は、S・A・B・C・Dをもって表わし、C以上を合格とする。

第9章 休学、転学、留学及び退学

(休学)

第29条 疾病その他特別な理由により6か月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第30条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学の延長を認めることができる。

2 休学期間は通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第14条の在学期間には算入しない。

(復学)

第31条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。ただし、復学の時期は学期の始めとする。

(転学)

第32条 他の大学院等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第33条 外国の大学院等において学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第36条の在学期間に含めることができる。ただし、その期間は1年以内とする。

3 第25条第2項の規定は、外国の大学院へ留学する場合に準用する。

4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第34条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(措置による退学)

第35条 次の各号の一に該当する者は、研究科委員会の議を経て、学長が退学の措置を講ずる。

- 一 第14条に定める在学年限を超えた者。
- 二 第30条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者。
- 三 授業料の納付を怠り、督促をしてもなお納付しない者。
- 四 長期間にわたり行方不明の者。

第10章 課程の修了及び学位等

(博士前期課程の修了要件)

第36条 本大学院博士前期課程に2年(第20条、第21条各1項の規定により入学した者については、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数、また第33条第2項による期間を含む年数)以上在学し、別に定めるところにより、32単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等についての審査及び最終試験に合格したときは、研究科委員会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。

(博士後期課程の修了要件)

第36条の2 博士前期課程を修了後、博士後期課程に3年(第20条、第21条各1項の規定により入学した者については、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数、また第33条第2項による期間を含む年数)以上在学し、別に定めるところにより、10単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び最終試験に合格したときは、研究科委員会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げた者と研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

(学位の授与)

第37条 本大学院の博士前期課程を修了した者には修士(美術)の学位を、博士後期課程を修了した者には博士(美術)の学位を授与する。

2 本大学院の博士後期課程を経ない者であっても本学学位規程の定めるところにより、博士論文を提出し、その審査及び試験に合格し、かつ、本大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認められた者についても第1項の博士の学位を授与することができる。

3 学位に関する規則は別に定める。

(教員免許状の取得)

第38条 高等学校及び中学校の教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。

(教員免許状の種類)

第39条 本大学院において取得することのできる教員免許状の種類は次のとおりとする。

研究科・専攻		高等学校教諭 専修免許状	中学校教諭 専修免許状
美術研究科	美術専攻	美術 工芸	美術
	デザイン専攻	美術 工芸	美術
	芸術文化専攻	美術 工芸	美術

(学芸員資格の取得)

第40条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館に関する科目及び単位を修得しなければならない。

第11章 賞罰

(表彰)

第41条 学生として表彰に値する行為があった者は、研究科委員会の議を経て、学長が表彰する。

(懲戒)

第42条 本大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。

二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

三 正当な理由がなくて出席常でない者。

四 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者。

第12章 研究員、研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究員)

第43条 本大学院において、特定の専門事項について研究を希望する者があるときは、研究科委員会の議を経て研究員として受入れることがある。2 その他研究員に関する規則は別に定める。

(研究生)

第43条の2 本大学院において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生を志願することのできる者は、大学院博士前期課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

4 その他研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第44条 本大学院において特定の授業科目の履修を志願する者がいるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

2 科目等履修生で履修科目の試験に合格したものには単位を与えることができる。

3 その他科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第44条の2 他の大学院の学生で、本大学院の授業科目を履修することを希望する者がいるときは、当該他大学院との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 その他特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(研究員等の入学資格)

第44条の3 研究員、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生として本学大学院に入学できる者は、女子に限らないものとする。

(外国人留学生)

第45条 外国人で、大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院入学を志願する者がいるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 その他外国人留学生に関する規則は別に定める。

第13章 検定料、入学料、授業料その他の費用

(検定料等の額)

第46条 検定料、入学料、授業料等の額は、別表第2に定めるとおりとする。

(授業料等の納付)

第47条 授業料、実習料、施設設備料、維持費は年額の2分の1ずつを2期に分けて納付するものとする。ただし、前期分納付時に、後期分も併せて納付することができる。

前期納期 4月10日

後期納期 10月5日

2 第1項以外の費用は、全額を4月10日までに納付するものとする。

3 特別な事情があると認められる者については延納を認めることがある。

(転学、退学等の場合の授業料)

第48条 転学、退学した者については、在籍していた期までの授業料等を徴収する。ただし、第35条第三号又は第四号により退学の措置を講じられた者については、この限りではない。

2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(休学の場合の在籍料)

第49条 休学を許可され、又は命ぜられた者については、在籍料として授業料相当額の4分の1を徴収する。

2 在籍料の減免措置については、別に定める。

(研究生、科目等履修生の授業料等)

第50条 研究生及び科目等履修生の授業料等については別表第2に定めるとおりとする。

(納付した授業料等)

第51条 納付した検定料、入学料及び授業料等は原則として返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第52条 本大学院は社会人の生涯学習に寄与し、文化の向上に資するため、公開講座等を開設することができる。

第15章 補則

(女子美術大学学則の準用)

第53条 本学則に定めるもののほか、大学院学生等に関し必要な事項は、女子美術大学学則、学部学生に関する諸規程を準用する。

付 則

1 この学則は平成31年4月1日から施行する。

2 平成31年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

女子美術大学学位規程

(目 的)

第1条 この規程は女子美術大学学則（以下「大学学則」という。）第39条、女子美術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第37条の規定に基づき、女子美術大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学位の名称及び専攻分野の名称)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 前項に規定する学位を授与するにあたり、付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

	学 位	
	和 文	英 文
芸術学部	学士（芸術）	Bachelor of Fine Arts
美術研究科	修士（美術）	Master of Fine Arts
	博士（美術）	Doctor of Philosophy in Fine Arts

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は大学学則第38条の規定に基づき、本学の学部を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は大学院学則第36条の規定に基づき、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は大学院学則第36条の2の規定に基づき、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に定めるもののほか、博士の学位は大学院学則第37条第2項により、博士論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認された者にも授与することができる。

(学位論文等の提出)

第4条 修士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に修士論文又は作品（以下「修士論文等」という。）を添え研究科長に提出しなければならない。

2 博士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に博士論文を添え研究科長に提出しなければならない。

3 大学院学則第37条第2項により博士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に博士論文及び所定の学位論文審査手数料を添えて学長に提出しなければならない。

4 学長は前項により提出された博士論文の審査を研究科長に付託する。

5 修士論文等又は博士論文の提出の時期及び試験の期日、方法については別に定める。

(学位論文等の審査)

第5条 研究科長は修士論文等又は博士論文（以下「学位論文等」という。）の提出又は付託を受けた場合は、研究科委員会にその審査を依頼する。

2 研究科委員会は前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会は学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに研究科委員会の教員3名以上の審査委員を選定する。

4 研究科委員会は、学位論文等審査のため必要があると認めるときは、本学の教員または教員であった者、前項の審査委員に本学以外の大学院又は研究所等の教員等を委嘱することができる。

5 審査委員は学位論文等の審査及び試験を行うものとする。

(審査結果の報告)

第6条 審査委員は審査及び試験の結果を文書をもって研究科委員会に報告しなければならない。

(課程修了及び授与資格の認定)

第7条 研究科委員会は前条の報告に基づき、学位論文等の審査及び試験の結果により、その者の課程の修了の認定について、また、第4条第3項により学位の申請のあった者については、学位授与要件の有無の認定について、審議のうえ、合格又は不合格を決定する。

(学位の授与)

第8条 学長は、大学学則第38条に基づき卒業を認定された者並びに前条により課程の修了又は授与資格の認定をされた者に学位記を授与する。また、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

2 学位記の様式は別記1から4までのとおりとする。

(学位名称の使用)

第9条 本学で学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

(文部科学大臣への報告)

第10条 学長は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3ヵ月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に報告するものとする。

(博士論文要旨の公表)

第11条 本学は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3ヵ月以内に、当該論文の内容の要旨及びその審査結果の要旨を研究科委員会が定める方法でインターネット利用により公表するものとする。

(博士論文の公表)

第12条 博士の学位を授与された者は、その学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位授与に係わる論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由がある場合には、本学の承認を得て、当該博士の学位授与に係わる論文の内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前二項の公表は、研究科委員会が定める方法でインターネット利用により公表するものとする。

4 博士論文のほか、研究領域により研究作品が博士論文審査に加えられた場合は、研究科委員会が定める方法で研究作品を公表するものとする。

(学位の取消)

第13条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は教授会又は研究科委員会の議を経て学位を取消し、学位記を返付させ、かつ、その旨公表する。

- (1) 不正の方法により学位を授与されたことが判明したとき
- (2) 学位の名誉を汚す行為があったとき

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会の議を経るものとする。

付 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

学生生活

図書館の利用

図書館利用にあたって

学生証には図書館利用のためのバーコードが印刷されています。学生証は入館、図書・雑誌の貸出接写台の利用、AVコーナー利用の際に必要なになりますので、忘れずに携帯してください。

図書・学術雑誌の貸出

■ 貸出冊数・期間

・ 博士前期課程

図書	20冊：42日間	(禁帯出図書・館内図書・製本雑誌を含む)
未製本雑誌	20冊：21日間	

・ 博士後期課程

図書	20冊：63日間	(禁帯出図書・館内図書・製本雑誌を含む)
未製本雑誌	20冊：28日間	

■ 貸出制限

- 参考図書 : オーバーナイト貸出のみ可能です(原則として4時限終了後に貸出、翌日の1時限終了までに返却してください)
- 視聴覚資料 : 館外貸出はできません
- 貴重書 : 館外貸出はできません
- 雑誌最新号 : 館外貸出はできません

以上の他に保存上の理由等により、貸出に応じられない場合もあります。

<注意>

図書・雑誌の返却が遅れると督促します。20日以上遅れると、全ての貸出を停止します。督促を受けたら速やかに来館し、返却手続きをしてください。

※来館できない時は図書館へご連絡ください。

館内での利用

館内では自由に図書を探することができます。

■ 検索

- ・ 図書・学術雑誌は、図書館ホームページの検索画面で検索できます。各階に検索用コンピュータを設置しています。

■ 入庫

- ・ 閉架書庫に入庫して、直接禁帯出図書を探し、借りることができます(院生、教員のみ)
- ・ 入庫を希望する際は、カウンターで学生証を提示してお申し込みください。許可を示す「バッジ」をつけていただきます。
- ・ 貴重書の閲覧は、指導教員の随伴が必要です。

■ 大学院閲覧室

- ・ 相模原図書館には、大学院生専用の閲覧室が3階にあります。

他キャンパスからの図書取り寄せ

本学図書館ホームページ「マイライブラリ」画面上から申し込みができます。

URL <https://library.joshi.ac.jp/>

申し込みは、1度に5冊まで カウンターでの取置期限は14日間です。

レファレンス・サービス

利用に関すること、文献に関するご質問などは、レファレンスカウンターで受け付けます。

他大学図書館への文献複写、現物貸借依頼

本学図書館ホームページ「マイライブラリ」画面上から、申し込みができます。
文献複写・現物貸借は、図書館カウンターで現金と引き換えでお渡しします。
詳しくは図書館スタッフまでご相談ください。

他大学図書館への閲覧依頼

直接、他大学の図書館に申し込むことはできません。本学図書館が仲介し紹介状を発行いたします。
「資料名」「所在」「資料ID」と「閲覧を希望する日時（第1～3希望日くらいまで）」を特定のうえ
カウンターにご相談ください。なお相手館の都合がありますので「紹介状」の即日発行は受付できま
せん。数日前、時間に余裕をみてご相談ください。

撮影・複写

スライド作成のための撮影はカウンターへお申し込みください。接写台を用意してあります。カメラ
等の撮影機材は貸出しておりませんので、各自ご用意ください。

<注意>

貴重な図書は撮影・複写をお断りする場合があります。なお利用に際しては、著作権法の遵守をお
願いします。

紀 要

大学院美術研究科の学生については、論文の執筆申し込みができます。募集については、図書館ホー
ムページ、掲示板等でお知らせいたします。担当教授の推薦が必要です。
紀要は、図書館事務室にて無料配布しています。必要な方はお声がけください。

お問い合わせ先

女子美術大学相模原図書館（相模原キャンパス3号館・3階） TEL 042-778-6616
女子美術大学杉並図書館（杉並キャンパス2号館・地下1階） TEL 03-5340-4514

メールアドレスの付与

大学院生全員にメールアドレスを付与しています。アカウント通知書は教育支援センターから配付されま
す。受け取れなかった場合は、教育支援センター窓口に出してください。アカウント通知書を無くして
しまった場合は、図書美術館グループ 情報システム担当（図書館事務室）まで申し出てください。メー
ルアドレスは在学期間のみ利用可能です。

※アカウント通知書は個人情報です。大事に保管・取り扱ってください。

大学院生の実技教室使用

大学院生の教室使用については、研究活動を支援する上で必要と認めた場合、学部学生とは別に取り扱い扱います。

使用にあたっては、指導教員の許可を得て、授業に支障のないよう注意して使用することを原則とします。なお、以下の時間帯・期間に使用を希望する場合は、「特別使用届」の提出が必要です。

「特別使用届」を提出することにより使用可能となる時間帯

	授業期間	長期休業期間 (一斉休暇期間を除く)	日曜日・祝日 (授業期間および長期休業期間)
杉 並	7:30~9:00・20:00~22:00	9:00~20:00	9:00~19:00
相模原	7:30~9:20・20:00~22:00	9:20~20:00	9:20~19:00

【注】

1. 教員（助手を含む）が出校することを原則とする。
2. 施錠を必要とする教室の鍵は責任を持ち守衛所で受け渡しを行うこと
3. 下校時刻が遅い場合は防犯上できる限りタクシーを利用すること
4. 一斉休暇期間、入試にかかわる入校禁止日および以下の時間帯は使用不可

	授業期間	長期休業期間 (一斉休暇期間を除く)	日曜日・祝日 (授業期間および長期休業期間)
杉 並	7:30以前、22:00以降	9:00以前、20:00以降	9:00以前、19:00以降
相模原		9:20以前、20:00以降	9:20以前、19:00以降

作品及び荷物の搬出入についての取り扱い

やむを得ず運搬のために車両を構内に乗り入れる場合は、事前に研究室等の承認を得た上で前日迄に許可願を提出すること。なお、原則として構内は車両乗入不可のため、通路や一時駐車が可能な場所については警備員の指示に従うこと。

1. 日曜・祝日・入学試験実施期間の学生の作品および荷物の搬出入は原則として認めません。平日に行ってください。
2. 夏期・冬期・春期休業中の作品および荷物の搬出入は研究室の指示に従うこと。ただし、下記の期間は日曜・祝日以外でも作品および荷物の搬出入はできません。
夏期休業中の土曜日および事務取扱を行っていない期間／冬期休業中のうち年末年始の事務取扱を行っていない期間
3. 卒業・修了制作作品の搬出入については、各研究室の定めた期間に各研究室の指示に従うこと。
4. 作品および荷物の管理責任は学生本人が負うものとします。従って破損・紛失等については大学は一切の責任を負いません。

本学ポータルサイト「Active Academy」

Web履修登録の手順

Webレポート提出の手順について

Web出欠登録の手順について

本学ポータルサイト「Active Academy」Web履修登録の手順について

■ポータルサイト基本事項

○ログインページ <https://aa.joshibi.net/>

* 「http」でなく「https」ですのでご注意ください。※携帯電話フルブラウザは非対応です。

○ユーザーID：学籍コード

○パスワード：別紙にて配付

* 上記パスワードで女子美Gmail、マイライブラリー（図書館ポータル）へログインができます。

○稼働時間 毎日7：30～翌2：00

○停止期間 毎日2：00～7：30はメンテナンスのため稼働しません

■履修登録

2019年度履修登録スケジュール		7:30	9:30	10:30	13:00	14:00	17:00	翌2:00
4月 6日 (土)	履修登録開始9:30～							
4月 7日 (日)	↑							
4月 8日 (月)								
4月 9日 (火)								
4月 10日 (水)	履修登録期間							
4月 11日 (木)	抽選科目登録締切～14:00 ↑ 停止期間 ↓							
4月 12日 (金)	抽選結果発表10:30～							
4月 13日 (土)	履修登録締切～13:00 前期授業開始							
4月 14日 (日)								
4月 15日 (月)								
4月 16日 (火)								
4月 17日 (水)								
4月 18日 (木)	履修訂正開始9:30～ ↑ 履修期間 ↓							
4月 19日 (金)								
4月 20日 (土)	↓ 訂正内容確認・最終訂正締切～13:00							

※網掛け部分はWeb履修稼働時間

* 接続の制限時間は30分です。30分以上検索や登録等がないと接続が終了されます。

履修登録中は制限時間間近になったら、検索・登録ボタンを押すなどしてください。

* ポータルサイトの利用を終了する時は、必ず「ログアウト」を押してください。

本学ポータルサイト「Active Academy」のログイン方法

①ポータルサイトのログインページの表示

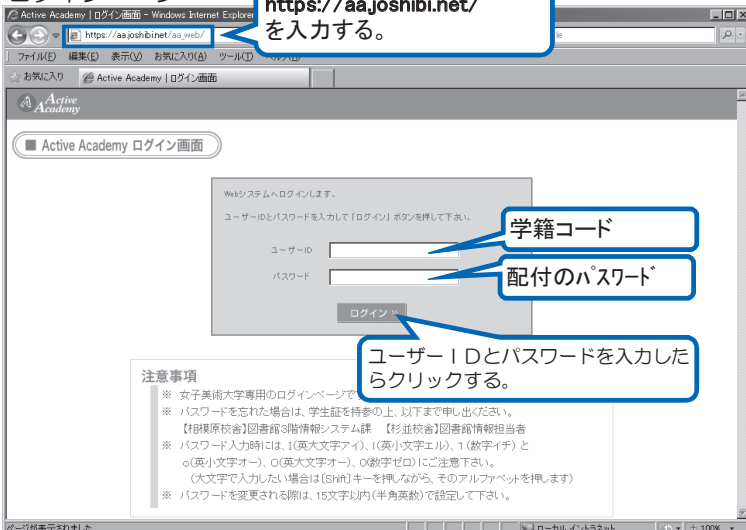
Internet Explorer、Chrome、Firefox、Safari等のブラウザを起動し、上記アドレスを入力し本学ポータルサイト「Active Academy」のログインページを表示してください。

②ログイン

ログインページが表示されましたら、注意事項とお知らせを確認してください。

ユーザーID及びパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

ログインページ



※Webシステムの制限事項

(1) 以下のブラウザについて動作確認を行っています。

•Microsoft Internet Explorer	Ver.6.0.2800.1106 以上
•Firefox	Ver.2.0.0.6 以上
•Opera	Ver.9.21 以上
•Safari	Ver.2.0.4 以上
•Google Chrome	Ver.8 以上

(2) ブラウザの設定について、以下の設定を有効としてください。
ブラウザごとに設定が異なりますので、以下のURLをご参照下さい。

•Cookie	https://pr.toriaez.jp/navi/howto/860.html
•JavaScript	https://support.google.com/adsense/answer/12654

ポータルトップ画面とメニュー・機能一覧

ログインすると以下の画面が表示されます。

女子美術大学
JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

ここが自分の名前になっていることを確認してください。

Welcome [ユーザー名]さん! ここはあなたの Personal Page です。

TOP
このページです
掲示板
学年暦
個人へのお知らせ
連絡事項
休補講情報
リンク登録
授業支援
履修登録
通年授業履修中止申請
抽選授業希望登録
授業抽選結果
教員情報照会
レポート提出
シラバス (大学)
シラバス (短期大学)
シラバス (大学院)
就職活動支援
企業検索
MyInformation
プロフィール変更
パスワード変更
個人情報
女子美Gmail
アクセス終了
ログアウト

補講日の予定については、学内掲示板を確認してください。
(学部・短大1年次「基礎学習ゼミ」の予定についてはWebシラバス及び学内掲示板を確認してください。)

リンク先へ

My Schedule

日 月

先週へ 2017/01/15(日)~2017/01/21(土) 週へ

01/15(日) 01/16(月) 01/17(火) 01/18(水) 01/19(木) 01/20(金) 01/21(土)

開始(集中補講) 終了(集中補講)

新しく予定を登録する

集中能

※ 教養表示については変更もありますので、掲示にも注意して下さい。

あなた宛の新しいお知らせが、 0 件あります。 > お知らせ一覧へ

新しい連絡事項が、 0 件あります。 > 連絡事項一覧へ

新しい休補講情報が、 0 件あります。 > 休補講情報一覧へ

あなた宛の新しいレポートが、 0 件あります。 > レポート一覧へ

【My Scheduleの機能】
履修している授業、学校のスケジュール、登録した予定等が表示されます。日・週・月単位に表示を変更することができます。
(授業教室変更の場合は掲示板でお知らせします。)

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。
(通常の授業日にスケジュールが表示されています。)集中補講日の時間割については、必ず別途掲示を確認してください。

【お知らせ・連絡事項の機能】
本学からあなた宛に配信された連絡が表示されます。メール配信が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【休補講情報の機能】
あなたが履修登録した科目で休講連絡があったものが表示されます。メール送付が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【レポート提出情報の機能】
あなたが履修登録している科目のうち、教員がポータル上でレポート提出の設定をした科目の情報が表示されます。

【メニューの機能】

■ 掲示板

- 学年暦
- 個人へのお知らせ
- 連絡事項
- 休補講情報
- リンク登録

…携帯電話で利用できる機能

主な行事を確認できます。
お知らせが閲覧できます。
連絡事項が閲覧できます。
休補講情報が確認できます。
各自でリンク先を登録できます。

■ 授業支援

- 履修登録
- 通年授業履修中止申請
- 抽選授業希望登録
- 授業抽選結果
- 教員情報照会
- レポート提出
- シラバス

履修する授業を登録できます。
通年授業科目の履修中止ができます。(後期履修訂正期間)
抽選科目の希望登録ができます。
抽選結果が確認できます。
教員の情報を照会できます。(随時更新予定)
教員がポータル上で設定したレポートの提出及び提出状況の確認ができます。
シラバスを参照できます。

■ 就職活動支援

- 企業検索

企業を検索できます。(随時更新予定)

■ MyInformation

- プロフィール変更
- パスワード変更
- 個人情報
- 女子美Gmail

プロフィールの参照、メールアドレスの設定及び変更ができます。
(メインのメールアドレスに休講情報等が転送されます)
パスワードを変更できます。
「登録されている個人情報」「成績表」「履修情報」「出欠情報」「就職情報」「GPA」(※2016年度以降の入学生)を確認することができます。
女子美Gmailのログイン画面が別が開きます。

■ アクセス終了

- ログアウト

ポータルサイトの利用を終了する時は必ず画面の「ログアウト」を押してください。

携帯電話で一部機能を使用できます。
ログインページ
<https://aa.joshibi.net/kei/>
※上記の表示画面を「Bookmark」や「お気に入り」などに保存してください。
※…携帯電話で利用できる機能
他に「時間割情報」等があります。
※携帯電話フルブラウザは非対応です。

* 学生生活に必要な情報や授業に関する事柄を連絡していきます。
毎日必ず自分のポータル画面をご覧ください。

■授業支援システム 《履修登録》

1、ポータル画面より、履修登録を起動します。

2、履修する授業を選択します。

履修登録している授業が一覧表示されます。

曜日・時限表は「前期」「後期」の2つあり、前期科目は「前期」、後期科目は「後期」、通年科目は両方で選択できます。今年度に履修登録する全授業科目（後期科目も含む）を登録します。（短大造形学科1年は後期科目のみ7月に登録します）

抽選科目は「抽選授業希望登録」から登録になります。抽選科目の希望登録する方は、抽選結果が履修に影響するため、抽選結果公表後に抽選科目以外の履修登録をしてください。授業を選択する曜日・時限にある鉛筆マークをクリックします。専門科目時間帯（実技時間帯）の授業の選択は、「専門集中など」の鉛筆マークをクリックします。網掛けの時間帯は専門科目時間帯（実技時間帯）です。講義系科目は原則履修登録できません。（大学院は除く）

画面1 履修登録入力

		GPAなし		
		前期	後期	年間
上限単位		42	42	42
対象単位		0	0	0
		0	0	0

■授業支援システム 《履修登録》

「曜日・時限」「専門集中など」をクリックすると、自分の所属と学年が履修できる授業の一覧が表示されます。この中から履修する授業を選択してチェックを付けます。
他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。
「曜日・時限」欄では重複履修できないため原則選択は1科目ですが、「専門集中など」欄は複数選択が可能です。授業名で下線のあるものをクリックすることで、その授業のシラバスを表示することができます。
「登録して戻る」をクリックすることで、チェックを付けた授業が登録されます。
授業を登録せずに入力画面に戻るときは、「破棄して戻る」をクリックします。

画面2 授業一覧からの選択

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

平成 年度 前期

表示している授業

学期 前期 曜日 月曜 時限 5限

学部学科 10 アート・デザイン表現学科メディア 学年 1 年 表示する授業 全ての授業

<検索結果> 2件の授業が該当しました。
※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

曜日	時限	選択	授業	授業名	期間	担当教員	必選	単位	定員	申請人数	状態
月曜	5限	<input type="checkbox"/>	2R241	ヒコクデザイン概論	前期		選択	2	-	0	
月曜	5限	<input checked="" type="checkbox"/>	2R361	ミュージアムデザイン概論	前期		選択	2	-	0	

↑ここをチェック

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

登録して戻る 破棄して戻る

登録して戻る 破棄して戻る

履修する授業をチェックする。
チェック出来ない科目は抽選科目です。
「抽選授業希望登録」から申込してください。

授業名をクリックするとその授業のシラバスが表示されます。

■授業支援システム 《履修登録》

「登録して戻る」をクリックすると、選択した授業が履修登録入力画面に反映されます。

画面1 履修登録入力

一度選択した授業を取り消す場合は、授業名称左のチェックを外します。
別の授業に変更する場合は、鉛筆マークをクリックして、選択済みの授業のチェックを外し、別の授業を選択します。

3、選択した授業を登録します。

今年度に履修登録する全授業科目（抽選科目・後期科目も含む）の選択を終えたら「表示内容で登録」をクリックします。クリック後、エラーチェックが行われ、履修登録の内容により、3-①[エラー無し]、3-② [エラー]、3-③ [警告] の3種類の結果が表示されます。

画面1 履修登録入力

3-① エラー無しの場合（履修登録の確定）

登録にエラーはありませんでした。表示された内容を確認し、間違いがなければ「登録確定」をクリックします。ここで、「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意してください。→「4. 登録を終了します」へ授業を変更するときは、「登録変更」をクリックして履修登録入力画面に戻り、再度授業を選択し直します。履修登録を取りやめるときは「登録中止」をクリックします。

画面4 履修登録確定

■ 履修登録確定

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録終了

平成 年度 前期

GPAなし

上限単位	前期	後期	年間
			42

履修登録の登録内容を確認して下さい。
 よろしければ「登録確定」のボタンを押して下さい。登録内容を変更する場合は「登録変更」ボタンを押して下さい。登録内容 今回の登録内容を中止する場合は「登録中止」ボタンを押

間違いがない時、登録確定をクリックする。ここで「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意。→「4. 登録を終了します」へ

変更が必要な時、登録変更をクリックする。

登録を中止する時、登録中止をクリックする。

①	授業	授業名	担当教員	必選	単位	エラー
専門 集中 など	2R031	アートデザイン表現基演A		必修	2	
	2R061	アートデザイン表現基演B		必修	2	
	2R091	アートデザイン表現基演C		必修	2	
	2R121	アートデザイン表現基演D		必修	2	
	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	
前期	1限	21031 哲学	選択 2	21121 音楽	選択 2	
	2限			23181 精神保健	選択 2	24061 西洋美術史特論A 選択 2
	3限					

3-② エラーがある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、エラーがある場合は、次のメッセージウィンドウが表示されて履修登録入力画面に戻ります。



履修登録入力画面では、履修エラーが発生した部分に、エラーマークと、エラー内容が表示されています。エラー内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。エラーの詳細を確認し、エラーが発生した部分の履修を修正してください。

すべてのエラーが無くなると、「表示内容で登録」をクリックしたときに、画面4 履修登録確定が表示されるようになります。エラーが無くならないと、登録が確定できません。

■授業支援システム 《履修登録》

画面1 履修登録入力

■履修登録入力

STEP-1 履修登録画面 → STEP-2 履修登録確認 → STEP-3 履修登録印刷 → STEP-4 履修登録終了

平成 年度 前期

		GPAなし		
		前期	後期	年間
上限単位				42
対象単位				20
登録単位				20

※特別に許可された授業を選択する場合はこちらから → 例外許可授業を選択する

※ をクリックすると授業の選択状態が変更されます。チェックを外して下さい。

※ 通年授業を示します。

クリックすると、エラーの詳細が別ウィンドウで表示される。エラー表示が無くなるよう修正する。エラーを無くさない限り履修登録を確定できません。

表示内容で登録

エラーが無くなったら、「表示内容で登録」をクリックする。

必修	単位	エラー
<input checked="" type="checkbox"/>	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	

1限

21031 哲学 選択 2

21121 音楽 選択 2

× 曜限が重複(24541)

24541 色彩学 選択 4

× 曜限が重複(21121)

23181 精神保健

24061 西洋美術史特論A

Active Academy | エラー詳細画面 - Windows Internet Explorer

http://172.16.4.37/aa_web/rishuTouroku/rt0220.aspx#err04

03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目は必ずしも履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

エラーの詳細を表示します。

ページが表示されました

3-③ 警告がある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、警告がある場合は、画面4 履修登録確定に進みます。警告が発生した部分に、警告マークと、警告内容が表示されています。警告内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。警告があっても、間違いではない場合、履修の修正をせずに履修登録確定はできますが、必ず詳細を確認してください。

画面4 履修登録確定

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

4、登録を終了します。

履修のエラーが無くなり、画面4 履修登録確定で「登録確定」をクリックすると、画面5 履修登録印刷に移動します。

画面5 履修登録印刷画面

期間	曜日	時限	授業	授業名	担当教員	必修	単位	注
通年	-	-	3596E	古美術研究(立)	〇〇 次郎	選択	2	例外
通年	-	-	35HJA	インターンシップB	〇〇 花子			例外
通年	月曜	5限	3309A	スポーツ実習(バス)	〇〇 次郎	選択	2	
通年	火曜	3限	3230A	イタリア語(中級)	〇〇 次郎	選択	2	例外
後期	火曜	1限	35DUA	色彩計画論B	〇〇 秋子	選択	2	
後期	水曜	2限	35FTA	舞台美術論	〇〇 三郎	選択	2	
後期	木曜	2限	3133A	言語学A	〇〇 次郎	選択	2	
後期	金曜	1限	3106A	哲学B	〇〇 夏子	選択	2	
後期	金曜	2限	35GTA	絵画表現論	〇〇 次郎	選択	2	
後期	金曜	3限	3172A	社会学A	〇〇 春子	選択	2	

■授業支援システム 《履修登録》

「確認表を印刷」をクリックすると、履修登録内容をPDF形式で表示します。
ここで必ず確認表を印刷しておいてください。

特に履修訂正の際、その印刷がない場合、履修登録内容が自分の履修計画と異なっていても、再訂正は一切認められません。

平成 年度 履修登録確認表 (後期)

前期	後期	年間	
上限単位	なし	なし	42
上限対象単位	1	13	14
登録単位	2	15	18

期別	期間	授業コード	授業科目名	担当教員名	必修	単位	教客名	抽選	備考	エラー内容
大	1									
大	2									
大	3									
大	4									
大	5	通年	3309A	スポーツ演習(9-30*1)	〇〇 太郎	選択	2	実技教員		
大	6									
大	1	後期	3500A	色彩計画論B	〇〇 秋子	選択	2	S1312		
大	2	通年	3230A	イタリア語(中級)	〇〇 次郎	選択	2	S132		例外
大	3									
大	4									
大	5									
大	6									
水	1									
水	2	後期	3507A	舞台芸術論	〇〇 三郎	選択	2	S133		
水	3									
水	4									
水	5									
水	6									
木	1									
木	2	後期	3133A	演習学A	〇〇 次郎	選択	2	S143		
木	3									
木	4									
木	5									
木	6									
金	1	後期	3106A	習字B	〇〇 夏子	選択	2	S133		
金	2	後期	3507A	絵画実習論	〇〇 次郎	選択	2	S1314		
金	3	後期	3172A	社会学A	〇〇 春子	選択	2	S143		
金	4									
金	5									
金	6									
土	1									
土	2									
土	3									
土	4									
土	5									
土	6									
集中など	通年	3596E	古美術研究(立)	〇〇 太郎	選択	2	実技教員		例外	
集中など	通年	3500A	インターンシップB	〇〇 花子					実技教員	例外

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

画面6 履修登録完了

Active Academy

ログインユーザー

トップページ 掲示板 Web申請 授業支援 就職活動支援 アンケート My Information **ログアウト**

■ 履修登録完了

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録終了

履修登録が完了しました。
おつかれさまでした。

TOP画面へ戻る場合はこちらへ → [トップページ](#)

ログアウトする場合はこちらへ → [ログアウト](#)

資料「エラー詳細画面」

全てのエラーをなくしないと、履修登録は完了できません。

ただし、エラー詳細で【警告】となっている項目は、修正を行わなくても履修登録を確定することが可能です。

画面7 エラー詳細画面

Active Academy | エラー詳細画面 - Windows Internet Explorer

https://aa.joshibinet/test/rishuuTouroku/rt0220.aspx#err04 JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

Active Academy

■ エラー詳細説明画面

エラーの詳細説明

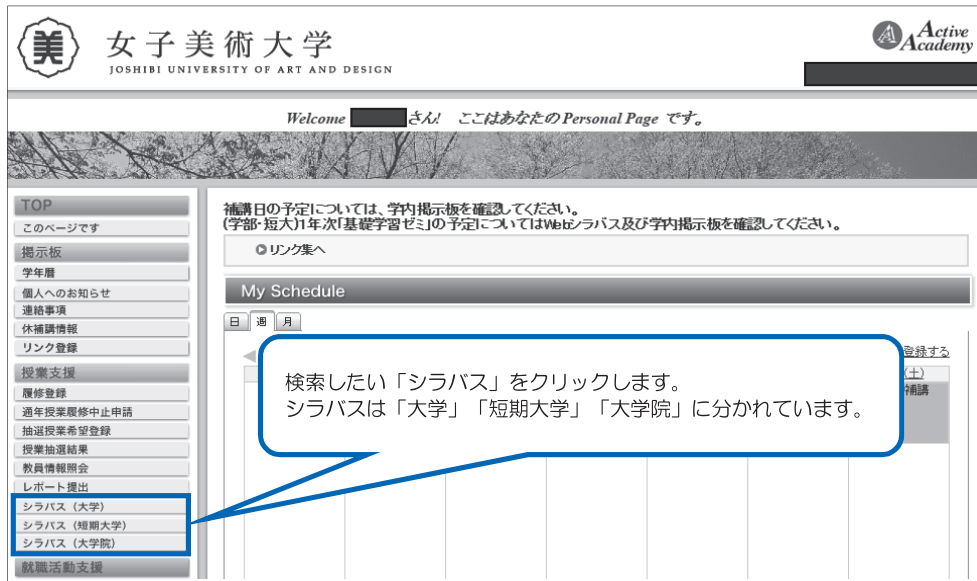
エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。
15	分割科目未履修	【警告】分割科目が未履修です。新カリキュラムの科目は、全ての分割科目を履修しないと単位として認められませんので、注意して下さい。
17	履修上限超過	【警告】履修登録した授業の単位数が上限値に達しています。履修上限値と現在の登録単位数は画面右上で確認して下さい。(上限単位:履修登録できる上限単位数、対象単位:上限チェック対象科目の合計単位数、登録単位:上限チェック対象科目以外も含む全科目の合計単位数)
63	重複再履修申請不可	重複再履修として申請できません。再履修者以外は申請できません。
65	同一曜限の授業がない	重複再履修として履修登録する場合は、同じ曜日・時限に別の授業の履修登録されていなければなりません。
69	定員エラー	定員を満たしている授業
81	卒業要件マスタ未登録	【警告】卒業要件マスタが未登録です。教育支援センターに問い合わせをお願いします。
112	履修登録できないエラー	この授業の履修登録はできません。詳細は教育支援センターまで問い合わせをお願いします。

閉じる

ページが表示されました インターネット 100%

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

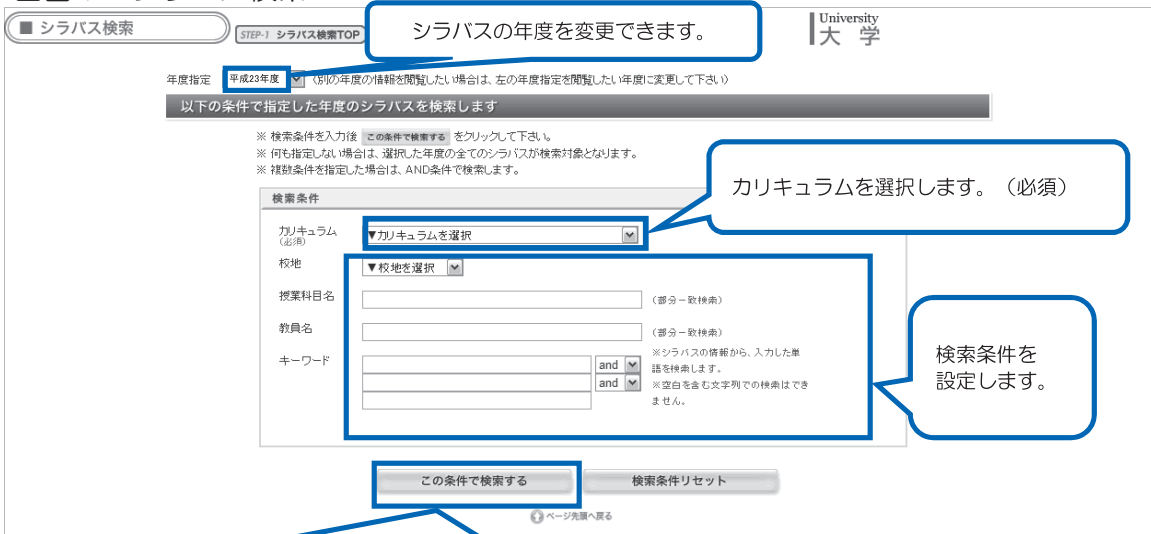
1、ポータル画面より、シラバス閲覧を起動します。



2、シラバス検索条件を入力します。

シラバスを閲覧する科目の検索条件を入力して、「この条件で検索する」をクリックします。カリキュラムは必須入力項目となります。

画面1 シラバス検索



設定した検索条件で検索します。検索条件設定が無い場合、選択したカリキュラムのシラバスが全件表示されます。

【検索条件】

項目名	必/任	説明
カリキュラム	必須	カリキュラムを選択します。
校地	任意	校地を選択します。
授業科目名	任意	授業科目名を入力します。部分一致検索となります。
教員名	任意	教員名を入力します。部分一致検索となります。
キーワード	任意	シラバスの、授業科目名、開講期間、配当年、単位数、授業形態、担当教員名、授業内容、授業計画の中に入力された単語を検索するための、キーワードを入力します。

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

3、シラバスを表示します。

検索結果一覧が表示されるので、閲覧するシラバスの授業科目名をクリックします。
科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面2 検索結果一覧

科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

授業科目名をクリックするとシラバスが表示されます。

授業科目名	開講期間	配当年	単位数	授業形態	担当教員	校地
英語学習ゼミ	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
ジャンル論	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
国際留学プログラム	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング	*	1年次	2単位	演習		杉並校地
キャリア形成(前期)	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
キャリア形成(後期)	後期	1年次	2単位	講義		杉並校地
インターンシップA~D	通年	1年次	1~4単位	実技		杉並校地

画面3 授業内容

「シラバス検索TOPに戻る」で、画面1 シラバス検索に戻ります。
「検索結果一覧に戻る」で、画面2 検索結果一覧に戻ります。
「ページの先頭に戻る」で、画面3 授業内容画面の先頭に戻ります。

選択した授業科目の内容です

授業科目名 : 国際留学プログラム 授業コード : 25091 2509A
英文科目名 : *

開講期間	配当年	単位数	授業形態
通年	1~4年次	2単位	演習

担当教員

杉並校地 2010~年度入学生対象 E群

科目キーワード 海外大学における研修または留学を通じて異文化の中で芸術表現や研究活動を展開し、国際感覚を涵養する。

授業内容1 (1)本学が企画する海外大学における研修で、現地での授業時間が60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)のカリキュラムを履修する。
(2)本学の学術交流協定大学において協定海外留学生として、夏期休業期間中又は春期休業期間中に延べ60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)の現地授業科目を履修する。

授業内容2

授業計画 カリキュラムまたは現地授業科目により異なる。詳細は募集説明会や出国前オリエンテーション等で解説する。

到達目標 異文化の中で芸術表現や研究活動を展開すること。言語運用能力を高め、言葉によるコミュニケーションの重要性を認識すること。将来、長期の海外留学を希望する者は、留学生活における基本行動様式を身につけること。

授業以外の学習方法(予習・授業準備・復習等) 出国前から研修先または留学先言語の運用能力を向上させる学習を欠かさないこと。現地の芸術、文化、伝統、人の思考方法や生活様式に関心をもち理解を深めることで、より充実した学習期間を過ごすことができる。

履修者への注意事項 ※履修について
○研修プログラムや留学プログラムが実施される場合は、指示板を通じて通知する。
○研修プログラムや留学プログラムは人数制限があるため、抽選または選抜試験を行うことがある。
○単位取得を希望する場合は、研修または留学の終了後に履修登録を申請すること。

外国で学習するために最も必要なのは、身体と精神の健康を保つことである。健康管理に際し、自分なりのストレス解消法を身につけておくことが望ましい。また、日本と社会環境が違う外国での生活では、トラブルや各種危機の管理に配慮することは極めて重要であり、「自分の身は自分で守る」という大原則を常に意識してほしい。

評価方法 (1)研修先または留学先の教員の学習評価書75%、提出レポート25%
(2)上記(1)による成績評価が困難な場合は、「海外芸術プログラム」としての単位のみを認定する。

テキスト 研修先または留学先でテキストが指定され、また、プリント類が配布されることがある。

参考文献・参考作品 特になし。募集説明会や出国前オリエンテーション等で紹介することがある。

参考リンク

画面1 シラバス検索に戻ります。

画面2 検索結果一覧に戻ります。

このページの前頭に戻ります。

ポータルサイトの利用が終わったら、画面右上の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《Web レポート提出の手順について》

一部の科目においてWeb上でレポート提出を行います。Active Academy「Webレポート提出」メニューから、提出及び提出状況確認が可能です。

【Web上でレポートを提出する際の注意事項について】

下記時間帯はシステムのメンテナンス時間となり、Active Academyへ接続できないので注意してください。

停止時間: 毎日 (AM) 2:00~7:30

指定されたレポート提出期限当日の締切直前の時間帯(日付が翌日になる24:00直前など)は回線が混み合うことがありますので、締切日までに余裕をもって提出するようにしてください。

【注意】回線の混雑により締切日までに提出できなかった場合でも、教育支援センターでは提出を受け付けませんので注意してください。

●Webレポート提出作業の流れについて

1. ポータル画面より、レポート提出情報を確認します。

補講日の予定については、学内掲示板を確認してください。
(学部・短大)年次「基礎学習ゼミ」の予定についてはWebシラバス及び学内掲示板を確認してください。

●新しいレポートがあります ●リンク集へ

①「新しいレポートがあります」をクリックすると、新着のレポート情報が表示されます。(画面.1)

②「レポート提出」をクリックします。(画面.2)

(画面.1: 新着レポート情報)

あなたの新しいレポートが、 1 件あります。

NEW	04/28	レポート課題について	現代美学	月曜日	5時限	
-----	-------	------------	------	-----	-----	--

※表示している日付はレポート開始日です。

2. レポート提出する授業を選択します。

履修している授業のうち、教員がWeb上でのレポート提出を設定した授業科目の一覧が表示されます。

(授業科目名、開講学期、曜日時限、担当教員名、レポート名、レポート番号、提出先、掲載日、提出期限、提出日、提出状況)

(画面.2: レポート一覧画面(例))

①新着のレポート情報の場合、「NEW」と表示されます。

②レポート名をクリックすると、レポート提出画面へ移ります。(画面.3)

授業	授業科目名	開講学期	曜日	時限	担当教員名	レポート名	レポート番号	提出先	掲載日	提出期限	提出日	提出状況
NEW	現代美学	前期	月曜日	5時限		レポート課題について	1622433A001	Web	28年04月28日	28年05月15日		未提出

(画面.3: レポート提出画面)

③レポートの内容について下記を確認してください。

- レポート名
- 授業名
- 掲載日
- 提出期限
- 課題内容
- 提出方法
- 備考
- 添付ファイル

④「ファイルを添付」をクリックし、レポートのデータを添付します。

レポートの提出

レポートを提出する キャンセル

3. アップロード(添付)するレポートのデータを選択します。

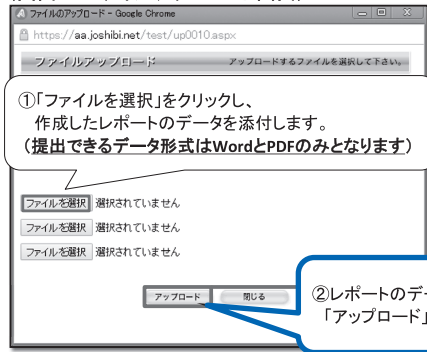
【注意】提出する際は、下記の事項について特に注意しながら作業を行ってください。

ボタンを押してファイルを選択して下さい。同一ファイルの複数アップロード不可。
 1ファイル5Mまでのファイルを最大3ファイル同時にアップロード出来ます。
 容量が大きいファイルを指定すると「ページを表示できません。」画面が表示される可能性があります。
 「ページを表示できません。」画面が表示された場合はウィンドウを閉じてやり直して下さい。
 ファイル名は全角27文字(半角55文字)以下にしてください。
 PDF(pdf)、Word(doc、docx)ファイルのアップロードが可能です。

【備考】PC画面上でファイルアップロード画面が表示されない場合

各自で利用しているブラウザ(chrome、safari、Fire fox等)の設定からポップアップブロックを解除してください。

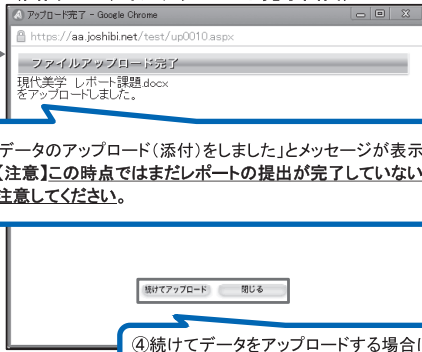
(画面.4:ファイルアップロード画面)



①「ファイルを選択」をクリックし、作成したレポートのデータを添付します。(提出できるデータ形式はWordとPDFのみとなります)

②レポートのデータ添付が完了したら、「アップロード」ボタンをクリックします。

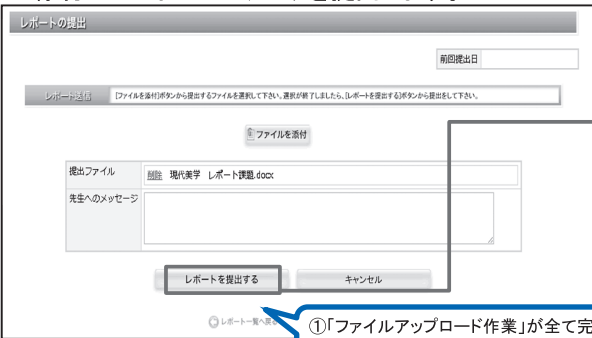
(画面.5:ファイルアップロード完了画面)



③「データのアップロード(添付)をしました」とメッセージが表示されます。【注意】この時点ではまだレポートの提出が完了していないので注意してください。

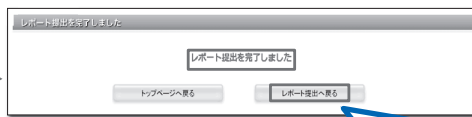
④続けてデータをアップロードする場合は「続けてアップロード」ボタンを押します。

4. 添付したレポートのデータを提出します。



①「ファイルアップロード作業」が全て完了したら、「レポートを提出する」ボタンを押してください。

(画面.6:レポート提出完了画面)



②「レポート提出を完了しました」と表示されたら提出作業は完了です。「レポート提出へ戻る」ボタンを押して提出状況を必ず確認してください。(画面.7)

(画面.7:レポート提出一覧画面)



③提出状況が「提出済」と表示されているか必ず確認してください。

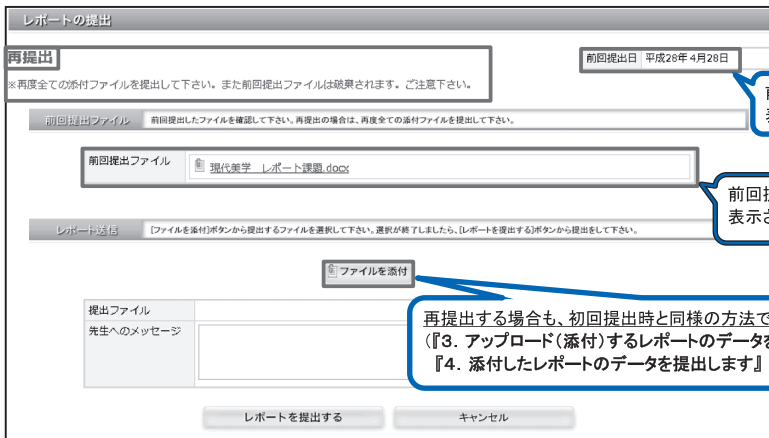
※レポートを再提出する場合について

レポートの再提出について、教員が設定した提出期限内であれば一度提出したレポートを再度提出する事が可能です。

【注意】ただし、再提出した場合は前回提出したレポートのデータは全て破棄されますので、注意してください。

例:最初にレポートを複数提出し、その後提出した内の1つのレポートだけを再提出した場合、前回提出時のレポートは全て破棄されます。

その場合は再提出するレポートと一緒に、必ず前回提出した他のレポートも同時に再提出してください。



前回レポートを提出した日付が表示されます。

前回提出したレポートが表示されます。

再提出する場合も、初回提出時と同様の方法で提出します。(『3. アップロード(添付)するレポートのデータを選択します』『4. 添付したレポートのデータを提出します』を参照)

Web 出欠登録の手順について

●はじめに ～Web出欠登録について～

【スマートフォン出欠登録専用サイトについて】

- 女子美術大学では、講義系授業科目における出席の届け出について「Web出欠管理システム」を導入しています。
- 各自で出欠登録専用サイトへログイン&出欠登録を行うことで、授業科目毎の出欠情報がActive Academyの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。



【ログインページについて】

- (出欠登録専用サイトのURL) <https://aa.joshihi.net/attend/>
- スマートフォン・タブレット端末・PCからアクセス可能です。 ※QRコードでの接続も可能です。
- ☞上記URLをブックマーク(お気に入り登録)しておく、次回より登録作業がスムーズになります。

【ユーザーIDとパスワードについて】

- Active Academyにログインする際に使用するユーザーID、パスワードと同じです。
- ユーザーIDとパスワードを忘れてしまった場合は、下記「図書美術館グループ」までお問い合わせください。
- ・杉並キャンパス2号館B1階
- ・相模原キャンパス3号館(図書館)3階



【出欠登録時における注意事項について】

- 出欠登録専用サイトは学内Wi-Fiのみ接続・利用が可能です。(学外での接続・使用はできません)
- 出欠登録の際、毎回特定のパスワードを入力する必要があります。
- ☞パスワードは授業開始前に担当教員より告知されるので、よく注意して確認してください。
- 出欠登録は制限時間内に行う必要があります。
- ☞出欠登録時間外は「遅刻」または「登録時間外」となりますので、パスワードを確認次第、早急に登録してください。

●出欠登録作業の流れについて

1. 出欠登録を行うために学内Wi-Fiへ接続します。

(例: iPhoneを使用する場合)

- ①設定画面 を開き、Wi-Fiを選択し、学内Wi-Fiに接続します。

図.1 Wi-Fi接続先選択画面



Wi-Fi接続をONにしてください。

- ②接続先が表示されるので、「joshihi-wlan」を接続先として選択し、ユーザーIDとパスワードを入力します。

※Active Academyに接続する際に使用するパスワードと同じです。

- ③正常に学内Wi-Fiに接続されると✓がつき、接続作業は完了です(図.1)

※Wi-Fiへの接続はiPhone/Android等のOSや、そのバージョンによって、設定方法が異なる場合があります。その際は端末の説明書をご確認ください。

2. スマートフォン専用の出欠登録専用サイトに接続します。

- ①学内Wi-Fiと接続したら、ブラウザアプリ(Safari等)で、出欠登録専用サイトにアクセスしてください。
<https://aa.joshihi.net/attend/> (※URLの打込み間違いに注意!) ※QRコードでの接続も可能です。
- ②ログイン画面が表示されたら、ユーザーIDとパスワードを入力してください。(図.2)

出欠登録専用サイト
QRコード



図.2 ログイン画面



正常にログインすると
出欠登録画面が表示されます。
(図.3)

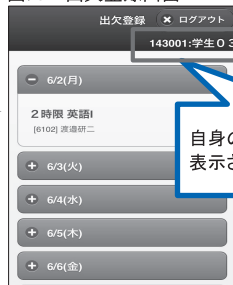
Active Academyにログインする際に使用するユーザーID、パスワードと同じです。

正常にログインが出来なかった場合・・・(図.4)

図.4 エラー画面



図.3 出欠登録画面



自身の学籍番号・氏名で
表示されているか確認してください。

- ・各自で履修登録している、1週間分の授業情報(講義科目)のみ一覧で表示されます。
- ・週の表示は日曜始まりとし、日曜になると翌週の表示に変わります。
- ・ここで表示される内容は下記の通りとなります。
①学籍コード ②氏名 ③日付 ④曜日 ⑤教室名[] ⑥担当教員

【エラー原因について】

- ・学外(授業実施教室外)で接続している場合
☞(学外での接続・使用はできません。)
- ・学内(授業実施教室内)で接続している場合
☞学内Wi-Fiに正しく接続されているか確認をしてください。
- ☞接続が混雑している可能性がありますので、少し時間を空けて再度ログインを試みてください。

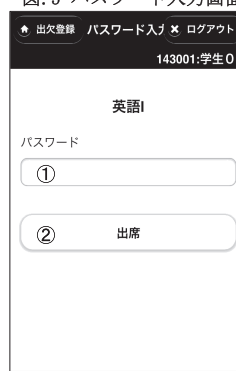
3. 出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

図.3 出欠登録画面



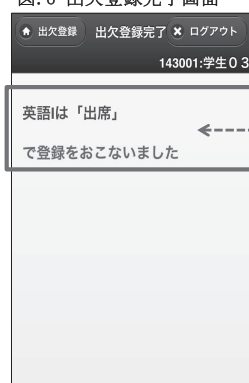
出欠登録画面(図.3)で、出席する授業名を選択するとパスワード入力画面に遷移します。(図.5)

図.5 パスワード入力画面



正しいパスワードを入力した場合、「〇〇(科目名)は「出席」で登録をおこないました」と表示されます。(図.6)

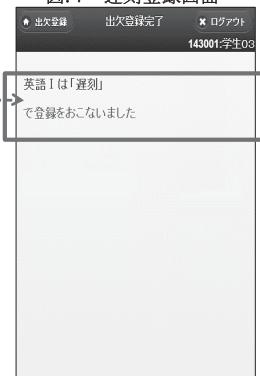
図.6 出欠登録完了画面



①「パスワード」入力欄に担当教員から事前に告知された指定のパスワードを入力します。(図.5)
②「出席」ボタンを押してください。

出欠登録時間外に登録した場合・・・

図.7 遅刻登録画面



出欠登録時間外に登録した場合、「〇〇(科目名)は「遅刻」で登録をおこないました」と表示されます。(図.7)

図.8 出欠登録画面



出欠登録画面に戻ると、出欠登録した授業の時限の横に登録状態(出席・遅刻・欠席)が表示されます。(図.8)

※無線接続時の混雑回避の為、作業終了後は必ずログアウトし、学内Wi-Fiの接続を終了するよう、ご協力ください。

以上でスマートフォン専用サイトによる出欠登録作業は終了です。各自、Active AcademyのMyInformation-個人情報-「出欠情報」にて出席状況を確認してください。

●おわりに ～Web出欠登録に関するQ&A～

Q. 自分のユーザーIDとパスワードが分からないor忘れてしまった場合・・・

A. 「図書美術館グループ」までお問い合わせください。(前ページの『●はじめに・・・【ユーザーIDとパスワードについて】』を参照)

Q. お手持ちのスマートフォン、タブレット、携帯で出欠登録が出来ない場合・・・

A. 授業開始時に、機種の問題等で出欠登録が出来ない方を対象に登録可能なPCもしくはタブレットを事前に準備しますので、そちらで各自登録を済ませてください。

Q. 学内Wi-Fiに接続出来たが、出欠登録専用サイトにアクセスできない場合・・・

A. 出欠登録専用サイトのURLを打ち込む際に、下記誤入力をしている場合が考えられますので、よく確認をしながらURLを打ち込んでください。
☞ よくある誤入力・・・【URLの最初、httpsの「s」が抜けている】、【「.」が抜けている】、【URLの最後に「/」を入れ忘れてる】等

Q. 出欠登録完了後、出欠登録画面に【出席】と表示されたのに、後日Active AcademyのMyInformation-個人情報-「出欠情報」で確認すると、出席になっていなかった場合

A. このような場合は、至急教育支援センターの窓口へ来てください。

【重要】出欠登録後、該当科目に【出席】が表示されたら、なるべくその場でActive Academyの出欠情報に反映されているか確認しておいてください。(※念の為、登録完了が表示された画面をスクリーンショット等で保存しておく、窓口で事情が説明しやすいかと思います。)

2019 履修登録用時間割 下書き表

前 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

後 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

集中 など					

「集中など」の欄には
「集中授業」「教育実習」「博物館実習」等を記入してください。